

国際学部・国際社会科学 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K100010	国際関係論 (1年生用)	大学における学び方を身につけながら、国際関係の理論及び諸問題の考察を通して、現実の国際関係を正確かつ体系的に把握する力を養うことを目標としている。歴史、理論、そして現象を関連付けながら、学問的な分析と現実の世界との関係性を考察し、多角的に国際関係を捉える視点を養うことが最終的なねらいである。	学部基礎科目として、国際関係論に関わる分野横断的な知識の獲得を重視している。また、国際関係の歴史とともに変化してきた理論を現象と関連付けながら、相対的な視点を持ちつつ実証的且つ体系的に国際関係を考察する力を養う。	・国境を越えた社会の諸問題に関する国際関係論について、分野横断的に理解しつつの基本的な知識を身につける。 ・異なる時代・地域の社会における歴史、理論、そして現象を関連付けながら、比較考察的な視点を持ちつつ、実証的かつ合理的に国際関係を考察する。	0.4	0.3	0.0	0.3
K100011	国際関係論(2年生以上)	大学における学び方を身につけながら、国際関係の理論及び諸問題の考察を通して、現実の国際関係を正確かつ体系的に把握する力を養うことを目標としている。歴史、理論、そして現象を関連付けながら、学問的な分析と現実の世界との関係性を考察し、多角的に国際関係を捉える視点を養うことが最終的なねらいである。	学部基礎科目として、国際関係論に関わる分野横断的な知識の獲得を重視している。また、国際関係の歴史とともに変化してきた理論を現象と関連付けながら、相対的な視点を持ちつつ実証的且つ体系的に国際関係を考察する力を養う。さらにコメントシートや中間レポートの執筆などを通して、国際関係について自発的に学習する態度を養う。	・国境を越えた社会の諸問題に関する国際関係論についての基本的な知識を身につけ、主要な理論を歴史的・地理的観点から理解する。 ・異なる時代・地域の社会における歴史、理論、そして現象を関連付けながら、相対的な視点を持ちつつ体系的に国際関係を考察する。 自分たちとは異なる世界各地の社会問題に関心を持つために、国際関係に関わる報道や情報を主体的に収集し、自発的な態度を身に付ける。	0.4	0.3	0.0	0.3
K100015	地球環境政策論	地球環境政策発展の歴史や気候変動ガバナンス形成、およびこれらを理解する上で重要な諸概念について、講義を行ったうえで、文献輪読を通じて、国際/国レベルの気候政策形成における政治力学について考察する。	地球環境政策発展の歴史、及びこれらを理解する上で重要な諸概念について基礎知識を習得する。国際/国レベルの気候政策形成における政治力学について、構造的に思考、判断する。当該分野の学術論文を読み、その内容や論点をまとめて口頭発表し、議論する。地球環境政策についての知識を意欲的に吸収し、自発的に議論に参加する。	地球環境政策発展の歴史や気候変動ガバナンス形成、およびこれらを理解する上で重要な諸概念についての基礎知識を習得する。また、国際/国レベルの気候政策形成における政治力学について構造的に思考・判断する。	0.3	0.3	0.1	0.3
K100020	Japan's International Relations	The aim of this course is to study Japan's international relations through English texts and materials. By analyzing Japan's foreign policies through foreign language, it is expected that students will enhance their abilities to understand the role and position of Japan in today's world.	To learn basic facts and major topics concerning Japan's International Relations. Also to nurture abilities to read academic English, to give presentation and to actively participate in discussion in English.	・To analyse the major topics concerning Japan's foreign policies and their influence to the world by reading English newspapers and journals. ・To enhance the ability to read English texts, to give presentation and to discuss Japan's international relations in English.	0.1	0.3	0.3	0.3
K100029	地域研究論	「地域」の特殊性と理論の普遍性の結合を目指す学問である地域研究の、概要と方法を学びます。世界各地の「地域」の文化や経済活動、民族問題、表象など、幅広いトピックを元に地域研究への理解を深めます。	(A)分野横断的に理解することが、地域研究の主眼であるため、この点を重視している。(B)「異なる地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察する」方法を修得することが、地域研究論の主眼の一つである。	・国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。 ・異なる地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。	0.4	0.4	0.1	0.1
K100037	国際英語コミュニケーション	国際英語コミュニケーションに関する講義を通して、英語の使用レジスター、英語の変種、英語の学習法等について理解する。また、note-takingについても扱う。学生は毎週テーマ別の発表を行う。	言語は人間の重要な文化遺産であり、その理解は文化理解と密接に関連している。	英語について様々な角度から学問的に考える態度を養う。	専門導入科目			
K100045	文化人類学	文化人類学は、自分が属する文化以外の文化を学ぶことによって、人間と文化の多様性を研究する学問です。この授業では、文化人類学の基礎を学ぶことで、異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけます。	通文化的な社会の問題を比較・理解したうえで、他文化を尊重する態度を身につける。	異文化を、自文化の基準ではなく、その文化の立場から理解しようと努め、異文化の知識にもとづいて自文化の常識を批判し、文化の多様性を尊重する態度を身につけます。	0.3	0.3	0.1	0.3
K100053	異文化間コミュニケーション	国際社会における相互理解に寄与するためには、多様な文化の様相と異なる文化間の交流について学ばなければなりません。この授業では、このような交流の基本単位である一人の人間に焦点を当て、異文化コミュニケーションにおけるその心理と行動の特徴について解説します。	・異文化間コミュニケーションの様々な問題の背景に関する基礎的な知識を習得する。(A) ・異文化間コミュニケーションにおける問題を自分自身で分析する基礎力を養う。(C) ・問題に対する比較考察的で相対的な視点をもった対応策について自分自身で検討できる力を習得する。(B)	・異文化間コミュニケーションの様々な問題の背景に関する基礎的な知識を習得する。 ・異文化間コミュニケーションにおける問題を自分自身で分析する基礎力を養う。 ・問題に対する比較考察的で相対的な視点をもった対応策について自分自身で検討できる力を習得する。	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K100061	対人コミュニケーション論	この授業では、対面の人と人のコミュニケーションのなかから、特に表情を通じた感情のコミュニケーションをテーマに話します。主に心理学の分野で行われた研究と、その方法について紹介し、説明します。	・感情コミュニケーションの特徴について、地域間の比較や相対的な視点に立ちつつ、基礎的な知識を修得する。(A) ・実験や調査の方法論の基礎について、自ら体験しつつ理解を深める。(C)	・感情コミュニケーションの特徴について、地域間の比較や相対的な視点に立ちつつ、基礎的な知識を修得する。 ・実験や調査の方法論の基礎について、自ら体験しつつ理解を深める。	0.2	0.3	0.3	0.2
K110105	英語会話	3泊4日の集中英語合宿訓練を行う。合宿中のすべてのコミュニケーションは英語で行われる。そのために、事前に5グループに分かれて、3回の事前指導を行う。合宿中は、英語会話の授業のほか、劇、ゲームなどの活動も行い、学生はいずれかの活動の責任者にならなければならない。	外国で生活し、専門的な職業に従事できるように、英語運用能力の向上を目指す。	英語で生活でき、コミュニケーションが取れるように、英語運用能力の向上を目指す。	0.2	0.2	0.2	0.4
K110106	上級英語会話	言語に関する論述文を読み、それをもとに発表や討議を英語で行う。	言語は人間の重要な文化遺産であり、その理解は文化理解と密接に関連している。	言語に関して、英語で理解し、発表や討議ができるようになること。	0.3	0.2	0.3	0.2
K110107	上級英語会話	This class uses current topics and themes of interest to students to encourage communication by engaging learners with interesting and authentic examples of language and culture. Listening, speaking and critical interpretation skills will be developed through active participation and practice.	The focus of this class is to produce interculturally aware active communicators by developing global perspectives, and comprehensive communication skills such as active speaking, interpretive listening and confidence in engaging in mutual exchanges of language and culture.	This is a comprehensive course in English communication and expression. The goal of the class is to develop critical thinking, listening comprehension, oral communication, interpretation and discussion skills.	0.3	0.2	0.3	0.2
K110108	Directed English Reading	一定の学問的もしくは文学的な内容をもった英語の文章の読解を行います。	二年次で履修する「学術英語講読」よりさらに難易度の高い英語文章の読解に入ります。	高度な英語読解能力を身につけること。	0.2	0.2	0.4	0.2
K110210	英語文章表現A	英語で学術的な文章を書きます。作文の課題を4〜5回程度提出してもらい、添削して返却します。クラス全体と個人別のコメントをします。必要があれば、文法や文章構成の説明もします。	学術英語の運用能力のうち文章表現力の養成に力を置きます。	本授業の目標は、パラグラフやエッセイなどの特徴を学びながら、英語で学術的な文章（特に研究論文）を書くための基礎を養うことにあります。	0.2	0.2	0.4	0.2
K110245	英語文章表現A	Students are expected to prepare a series of writing assignments. These writings will undergo a continuous process of revision as the class develops a stronger sense of what it means to establish a point of view and to support that point of view with a style of persuasive argumentation that adheres to the standards of an academic paper.	The focus of this course is not only on constructing ideas and points of view but also expressing these ideas in the context of a persuasive rhetorical style (expository writing).	The objective of this course is to increase fluency of written expression in academic writing in the English language through expository writing. To accomplish this goal students will not only become familiar with the specific stylistic requirements of expository writing, but will participate in developing a persuasive style of writing by engaging in an ongoing process of revising their written work.	0.2	0.2	0.4	0.2
K110261	英語文章表現B	学生ひとり一人の専門分野について、学術的な論文を英語で書く方法を学びます。	学術的な英語を運用できるようにするという目標のうち、文章表現について達成することをめざします。	本授業の目標は、それぞれの研究分野に関する論文を英語で書くことをめざします。	0.2	0.3	0.3	0.2
K110262	英語文章表現B	Over the course of the semester you will be expected to write: 1) a paper of approximately 5 -10 pages that includes works cited page(s) as well as citations (footnotes.)	The focus of this course is on constructing ideas as well as points of view and then expressing these ideas in the context of a persuasive rhetorical style while paying close attention to evaluating and recording those sources (print, web, interview, film, etc.) from which your information is gathered.	This class consists of a continuing examination of research methods used at the college level, as well as the writing technology involved in producing a 5-10 page research paper. Careful attention will be paid to the needs of each student and students will be asked to give presentations periodically regarding the progress of their writing and research.	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K110290	英語文章表現A	Students are expected to prepare a series of writing assignments. These writings will undergo a continuous process of revision as the class develops a stronger sense of what it means to establish a point of view and to support that point of view with a style of persuasive argumentation that adheres to the standards of an academic paper.	The focus of this course is not only on constructing ideas and points of view but then expressing these ideas in the context of a persuasive rhetorical style (expository writing).	The objective of this course is to increase fluency of written expression in academic writing in the English language through expository writing. To accomplish this goal students will not only become familiar with the specific stylistic requirements of expository writing, but will participate in developing a persuasive style of writing by engaging in an ongoing process of revising their written work.	0.2	0.2	0.4	0.2
K110291	英語文章表現A	英語での会話練習や作文演習によって、自分の状況を説明したり自分の意見を述べたりといった発信するための英語を学びます。	いろいろな身近な場面で使える英語での表現を学び、それを身につけるために、口頭での練習や作文演習をします。	自己紹介や身近な事柄について語るための語彙や表現を学び、それを使うようにすることを到達目標とします。	0.2	0.2	0.4	0.2
K110328	時事英語	総合教材として編集されたテキストを用いて、趣味、高齢化、犯罪、学生生活、スポーツ、健康、環境問題、宇宙開発などの題材を取り上げる。教材のリズニングも合わせて行う。また、補助教材として、時事英語のプリントを適宜配布し、購読する。	「世界で起っている出来事に対し、国際市民の1人としての確に英語を通して理解する。そして、時事的な問題に対する迅速で的確な理解をし、様々な設問に対する迅速な判断力を養成する。」ことを大きな教育目標、その具体化が、上記の授業の到達目標である。	英字新聞などのニュース記事を題材に、トップダウン方式のタスクを行ううちに、無理なく英語の読解力と英語での情報収集能力を養成することを目標とする。	0.3	0.3	0.1	0.3
K110329	時事英語	英語のニュースを聞き・理解する方法をCNNの音声、スクリプト、映像を通して学び、英字新聞の読み方を実際の英字新聞やオンラインの英字新聞を通して演習形式で学ぶ。	国際社会の問題に柔軟に対応するためには各現地語を理解することが最も大切だが、一番情報量の多い英語で時事問題を聴解・読解することにより、自国の報道とは違った視点を発見させ、偏見のない判断を下す力を涵養する。	英語のニュースを聞いて、理解できるようになることと、英字新聞が読めるようになること。	0.3	0.3	0.1	0.3
K110330	時事英語	基本的にニュースを英語で理解するために、新聞英語とテレビのニュース番組を教材として使い、その特性について学ぶ。	国際的な問題を理解するための基礎的な技能のひとつとして、新聞英語およびテレビのニュース番組における英語の特性を学び、英語の運用能力の向上を図る。	辞書を使用しながら英字新聞読めるようになること、およびテレビの英語によるニュース番組が分かるように、英語運用能力の向上を図る	0.3	0.3	0.1	0.3
K110331	時事英語	時事的な英文を精読し、基礎的な知識と読解力を身につける。	異なる文化を理解するための語学力に資する。	世界で起っている出来事を英語を通じて理解する能力を養う。	0.3	0.3	0.1	0.3
K110332	学術英語講読（歴史・地域研究領域）	この授業では、地域社会における観光開発にかんする学術英語論文の購読・和訳を通じて、英語能力の向上を図るとともに、地域社会にとつての観光開発の意味を考えます。	学術英語論文の購読・和訳を行うことによって、国際学を学ぶ上で必要とされる英語能力を養成する。	①時間がかかってもよいので、自力で英語の学術論文を読める力を身につける。 ②地域社会にとつての観光開発の意味を考える力を養う。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110333	学術英語講読（政治・経済領域）	学術英語文献・資料を輪読する。	学術英語文献・資料の購読を通じて、専門分野の文献を読む能力を養う。	学術英語分野のなかで、特に経済関連の文献・資料を読み、専門用語を正確に理解し、分析・読解する能力を養う。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110334	学術英語講読（政治・経済領域）	国際政治、国際経済を対象とした英文社説を精読する。	英文社説の精読を通じて、各国新聞社が記載する英文の論述把握力を身につけることで、国際的な視野を持った人材の養成に資する。	ダイナミックに展開する現代国際社会の動向および動静を理解し、今後の社会科学領域の諸現象を読み取る力を身につける。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110335	学術英語講読（文化・文学領域）	比較文化の視点を取り入れた歴史・芸術・文学に関する英語文献を読む。	時間軸、空間軸ともに広いパースペクティブで、歴史・芸術・文学を考察する。	高度な内容の英語文献についての読解力を身につける。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110336	国際実務英語 I	国際ビジネスや国際協力など国際分野や、国際交流活動・観光業などでの活躍に向けて、実践的な外国語運用能力を身につけることを目的とします。また、実務英語学習を通して、英語で自分の意見を伝える表現力や異文化の中で働くために求められるコミュニケーション・スキルの向上も目指します。事前に参考文献や英語の専門用語を予習し、合宿後にレポート提出を課します。	国際キャリア教育として、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習 I」「国際キャリア実習 I I」「国際実務英語 I」「国際実務英語 I I」の6科目があります。	1. 国際ビジネスや国際協力・国際交流活動・観光業などにおける、実践的な英語運用能力を身につける。2. 異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指す。	0.2	0.2	0.2	0.4

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K110337	国際実務英語 I I	国際ビジネスや国際協力など国際分野や、国際交流活動・観光業などでの実務を担うことのできる、本格的な英語運用能力を身につけます。また、ロールプレイを通して、英語で自分の意見を伝える表現力や異文化の中で働くために求められるコミュニケーション・仕切るをより高度化します。事前に参考文献や英語の専門用語を予習し、合宿後にレポート提出を課します。	国際キャリア教育として、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習 I」「国際キャリア実習 I I」「国際実務英語 I」「国際実務英語 I I」の6科目があります。	1. 「国際実務英語 I」では、実務英語に慣れることを目標としました。「国際実務英語 I I」では、国際ビジネスや国際協力・国際交流活動・観光業などの実務を担うことのできる、本格的な英語運用能力を身につけます。2. 異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指します。	0.2	0.2	0.4	0.2
K110338	学術英語講読 (国際関係・国際協力関係)	学生は毎回、テキストの訳文と課題への解答を提出します。発表の担当者はパワーポイントを用いて発表します。発表担当者によるテキストの解釈を聞きながら、全員で討論します。	(A) 地域社会の開発で直面する諸問題を理解する。(B) 地域社会の諸問題を実証的かつ合理的に考察できる。(C) 専門研究書の内容を正確に理解し、口頭で発表し、生産的な議論ができる。上記に必要な外国語に習熟する。(D) 世界の社会問題に広く関心を持ち、問題解決のために、実践的に行動できる。	1. 国際開発に必要な表現や語彙を英語で学ぶ。 2. 国際開発に必要な観点や方法を英語で学ぶ。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110339	学術英語講読 (国際社会・国際交流領域)	テキストを読み進めながら、英語読解力の向上を目指すとともに、日本の歴史や社会・文化的な特徴について幅広く話し合う。	日本の歴史や社会・文化的な特徴を英語で表現し、伝える能力を養う。	日本の歴史や社会・文化的な特徴についての概念的な英語を読解できるようにする。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110340	学術英語講読 (思想・言語領域)	William H. Brock: A Revolution in ideas. Sigmund Freud-His Life, Work and Times (音羽書房鶴見書店)を読みます。	国際学部生に求められる高度な英語読解能力を養います。	精神分析学者ジークムント・フロイトに関する入門書を英語で講読し、西洋思想において重要な位置を占める精神分析学について学ぶと同時に、学術英語読解能力の向上を目指します。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110341	学術英語講読 (コミュニケーション領域)	心理学の学術雑誌に掲載された「感情概念の日米比較」をテーマにした論文を読みます。	・専門家が書いた論文に直接触れ、実際に行われた研究や分析、その報告を読み、要点を正確に理解し、全体的にまとめることができるようになること。(C) ・学術論文の形式や体裁の基本を習得することを目指す。(C)	・専門家が書いた論文に直接触れ、実際に行われた研究や分析、その報告を読み、要点を正確に理解し、全体的にまとめることができるようになること。・言葉を翻訳することの意味について考える力を養うとともに、学術論文の形式や体裁の基本を習得することを目指す。	0.4	0.4	0.1	0.1
K111101	ドイツ語講読A	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、読解力を向上させ、ドイツの現代生活の一端をかい見ます。	外国語の一つであるドイツ語の学習を通して、自己をいかに伝え、他をいかに理解するかというコミュニケーション能力の基本的態度を身につける。	初級から中級へのレベルアップ、つまりある程度まとまりのあるドイツ語の文章を読みこなす読解力を養成し、簡単な意思表示を書いたり話したりできるようになることを目標とする。具体的には「独検」(ドイツ語技能検定試験)の3級合格程度の実力養成。	0.3	0.1	0.3	0.3
K111209	ドイツ語講読B	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、読解力を向上させ、ドイツの現代生活の一端をかい見ます。	外国語の一つであるドイツ語の学習を通して、自己をいかに伝え、他をいかに理解するかというコミュニケーション能力の基本的態度を身につける。	初級から中級へのレベルアップ、つまりある程度まとまりのあるドイツ語の文章を読みこなす読解力を養成し、簡単な意思表示を書いたり話したりできるようになることを目標とする。具体的には「独検」(ドイツ語技能検定試験)の3級合格程度の実力養成。	0.3	0.1	0.3	0.3
K111306	ドイツ語講読C	ドイツ語テキストを講読し、ドイツ語読解力を身につけます。	国際学部生に求められるハイレベルな第二外国語能力を身につけます。	中級以上の読解力の習得を目指します。	0.3	0.1	0.3	0.3
K111307	ドイツ語講読D				0.3	0.1	0.3	0.3
K111403	ドイツ語会話	ドイツ語を学ぶ入門として、初級文法の学習、実用的な会話を通じてドイツ語の基礎を習得する。また、ドイツ語圏での生活、文化、伝統も紹介する。	語学だけではなく、ドイツ語圏の生活文化、伝統にふれ興味を持ってもらうため、音楽、ビデオなどの教材も取り入れる。	初級文法を使い、ドイツ語に慣れ、ドイツ語でのコミュニケーション力をつけることを目指します。	0.3	0.2	0.3	0.2
K111500	ドイツ語文章表現	ドイツ語の初級文法を学びながら、会話での自己表現を身に付けドイツ語圏での生活文化、伝統も学んでいく。	学習したドイツ語文章表現を、実際に使った会話訓練の授業でコミュニケーション力をつけていく。	初級文法を終え、ドイツ語でのコミュニケーションに慣れ、自分の言葉で表現することを目指す。	0.3	0.2	0.3	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K112108	フランス語講読A	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。簡単な新聞記事を読むことによってフランス語の読解力を高め、フランスの時事問題とその背景について考える授業です。	(A)1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身に付ける。(B)自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断する。(C)発表と自由課題を通して、長文読解技術、発表技術の基礎を身に付ける。(D)フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養う。	自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断するとともに、発表と自由課題を通して、長文読解技術・発表技術の基礎を身に付け、フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養います。また、1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身につけます。	0.0	0.5	0.3	0.2
K112205	フランス語講読B	毎年出席する学生のフランス語経験、学力が異なるので、初回に顔合わせをし、希望も聞いた上で、使用テキストを決定、もしくは随時プリント配布を行います。一応、案として原語漫画、映画脚本、絵画解説、料理読本、易しい物語小説等を準備しています。	本授業は学部基礎科目（専門外国語科目）におけるフランス語講読の授業の内、Aの次に進むものとして位置づけられています。	本授業は、フランス語の基礎学力を十分に身につけた学生を対象に、演習形式で様々なフランス語の文章に触れ、読解力を養ってゆきます。	0.0	0.5	0.3	0.2
K112302	フランス語講読C	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。簡単な新聞記事を読むことによってフランス語の読解力を高め、フランスの時事問題とその背景について考えます。	(A)1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身に付ける。(B)自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断する。(C)発表と自由課題を通して、長文読解技術、発表技術の基礎を身に付ける。(D)フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養う。	自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断するとともに、発表と自由課題を通して、長文読解技術・発表技術の基礎を身に付け、フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養います。また、1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身につけます。	0.2	0.3	0.5	0.0
未定	フランス語講読D	毎年出席する学生のフランス語経験、学力が異なるので、初回に顔合わせをし、希望も聞いた上で、使用テキストを決定、もしくは随時プリント配布を行います。一応、案として原語漫画、映画脚本、絵画解説、料理読本、易しい物語小説等を準備しています。	本授業は学部基礎科目（専門外国語科目）におけるフランス語講読の授業の内、一番難易度の高い授業に位置づけられます。	本授業は、フランス語の基礎学力を十分に身につけた学生を対象に、演習形式で様々なフランス語の文章に触れ、読解力を養ってゆきます。	0.0	0.5	0.3	0.2
K112400	フランス語会話	小グループに分かれ、文法の復習を行いながら、実践的なコミュニケーション訓練を行います。	実践訓練を重視することにより、目標である『自然なフランス語の習得』の為の素地を整えます。	フランス語会話に必要な基礎知識、日常生活での様々な場面に対応できる自然なフランス語を、短期間で習得します。会話において基礎文法・基本表現等を応用できる思考力を養うとともに、言語の背景となっているフランス文化に関する幅広く豊かな知識を身につけます。	0.3	0.3	0.3	0.1
K112507	フランス語文章表現	この授業は、フランス語作文の授業です。初級の文法を復習しながら、日常的に用いられるフランス語を使って、さまざまな事柄を表現できるようにしていきます。フランス語の文の構造について、英語や日本語の文の構造との異同にも留意しながら解説します。	(A) フランス語の文の構造の理解を深め、それをもとにフランス語作文の基礎知識を身に付ける。(B) 作文の訓練を通して、フランス語、英語、日本語の文の構造をそれぞれ区別・比較できる。(C) フランス語の基礎的な作文技術を身に付ける。(D) 言語構造の比較と理解ぬきに本質的な異文化理解などありえないことを、実践的に会得する態度を養う。	フランス語の文の構造の理解を深め、それをもとにフランス語作文の基礎知識を身に付けるとともに、作文の実践訓練を通して、フランス語・英語・日本語の文の構造をそれぞれ区別・比較できるようにします。フランス語の基礎的な作文技術を身に付け、言語構造の比較と理解ぬきに本質的な異文化理解などありえないことを、実践的に会得する態度を養います。	0.5	0.3	0.2	0.0
K113104	中国語講読A	中国の歴史、文化、風俗、社会事情などに関しての読み物を、易しいものからやや高度なものへと段階的に読んでいきます。	隣国中国を知るための大切な授業の一つです。豊かな人間性と深い教養をもつ国際人の育成には本授業の果たす役割が大きいものと思います。	「読む」作業を通して、中国語の文章を読解する力を身につけ、中国への興味と理解を深めることを目標とします。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K113201	中国語講読B	中国語講読Aを履修した中級程度中国語学習者を対象に、基礎的かつ規範的な文章を講読することにより、より高度な中国語の表現法を学習するとともに、すでに習得した中国語の基礎知識を活用して、中国本土にとどまらず、台湾・香港など、華人社会に対する理解を深めることを目的とします。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>→中国及び華人社会の諸問題を現地文献資料から理解するために必要な基礎的な言語能力を涵養するとともに、基礎的かつ規範的な文献を精読することにより、当該社会に関する知識を獲得する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>→中国及び華人社会の諸問題を現地文献資料を用いて比較考察するために必要な基礎的な言語能力を涵養するとともに、基礎的かつ規範的な文献を精読することにより、自らの中国に関する知識・理解を確認しつつ、原典を読む基礎的な能力を獲得する。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→中国語で書かれた基礎的な文献を講読するに当たって、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめるために必要な言語能力を涵養する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p> <p>→中国語で書かれた基礎的な文献の講読を通じ、翻訳の妥当性や合理性を検討しつつ、外国語を翻訳する意義やそのために必要とする知識や技能を各受講者に検討させる機会を設け、今後、翻訳を行う際の倫理的かつ社会的諸問題について考えさせる。</p>	<p>1. 中等教育レベルの書籍を辞書を用い内容をほぼ理解できる能力を醸成する。</p> <p>2. 中国・台湾関連の情報を調べるための基礎的なツールや方法を知る。</p> <p>3. 繁体字によって書かれた中等教育レベルの中国語の文章をほぼ問題なく読解できるようになる。</p> <p>4. 中国語の文言文に触れる。</p> <p>5. 中国語の辞書・事典を用いて、用語の解釈ができるようになる。</p> <p>6. 自らの中国及び華人社会に関する知識・理解を確認しつつ、原典を読む基礎的な能力を獲得する。</p> <p>7. 翻訳を行う際の倫理的、社会的諸問題について考えさせる。</p>	0.2	0.2	0.3	0.3
K113309	中国語講読C	中国語講読A及びBを履修した中級上級程度中国語学習者を対象に、専門的用語を含む実践的な文章を講読することにより、より高度な中国語の表現法を学習するとともに、これまでに習得した中国語の知識を駆使して、中国本土にとどまらず、台湾・香港など、華人社会に対する理解を中国語原典を通じて理解するための基礎的な能力の醸成を目的とします。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>→中国及び華人社会の諸問題を現地文献資料から理解するために必要な言語能力をより高次のものとするとともに、専門的な文献を精読することにより、当該社会に関する知識を原典から獲得する力を身につけさせる。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>→中国及び華人社会の諸問題を現地文献資料を用いて比較考察するために必要な言語能力をより高次のものとするとともに、専門的な文献を精読することにより、自らの中国に関する知識・理解を問い直し、文献を批判的に読む基礎的な能力を獲得する。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→中国語で書かれた専門研究書や学術論文、調査報告書等を講読するに当たって、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめるために必要な基礎的な言語能力を涵養する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p> <p>→中国語で書かれた専門研究書や学術論文、調査報告書等を講読を通じ、翻訳の妥当性や合理性を検討し、外国語を翻訳する意義やそのために必要とする知識や技能、さらにそれらが翻訳を行う対象や場面の相違によって異なることを各受講者に検討させる機会を設け、今後、翻訳者となった場合に考慮しなければならない最低限の義務や責任について考えさせる。</p>	<p>1. 高等教育レベルの書籍を辞書を用い内容をほぼ理解できる能力を醸成する。</p> <p>2. 中国・台湾関連の情報を調べるための専門的なツールや方法を知る。</p> <p>3. 繁体字によって書かれた高等教育レベルの中国語の文章をほぼ問題なく読解できるようになる。</p> <p>4. 中国語の文言文を読解できるようになる。</p> <p>5. 中国語によって記された歴史学、社会学、文学など専門分野の事典、書籍を用いて、用語の解釈ができるようになる。</p> <p>6. 自ら中国及び華人社会に関する知識・理解を問い直しつつ、中国語原典を批判的に読む基礎的な能力を獲得する。</p> <p>7. 翻訳者としての義務や責任について考えさせる。</p>	0.2	0.2	0.3	0.3
K113310	中国語講読D				0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K113406	中国語会話	中国語を数多く耳で聞き、また口に出して練習することが中国語表現力の向上には一番効果的です。授業中、日常会話に使う基本的な単語、文法、慣用表現などを教え、また覚えたものを実際に使えるように、一対一の会話練習を繰り返します。リスニングも毎回取り入れます。	豊かな人間性と幅広い教養を持ち、国際的に活躍する人材の育成には本授業は役に立つものと思います。特に隣国の中国と共存していくのに、ここからの出発は第一歩ではないかと思われまます。	中国語でコミュニケーションをする時、言いたいことを中国語の構文ルールに従って正しく表現できること；知っている単語を上手に活かし、表現の幅を広げる力を持つこと、かけられた中国語をいち早く理解して、迅速に対応できること、この授業を受けることによって、以上の目標が大まかに達成できることと信じています。	0.2	0.2	0.3	0.3
K113503	中国語文章表現	如何に正しい中国語で表現するのか、一、二年次で習った基礎文法と語彙を生かすような形で中国語の表現力を高めていきます。辞書や文法書には書かれていない、例えば語と語との相性問題（中国人は実際こう言うのか）、物事の表現における日中両言語の相違、並びにそれを支えている二つの国の文化的な違いなどについても、折に触れて説明・解説します。より広い視野で外国語を考え楽しんでもらいます。	異なる時代・地域の文化の様相、及び社会の諸問題に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、合理的な考察を進めるために、中国語で書かれた専門研究書等を講読し、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめた上で、その内容を、中国語を用い、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うための基礎的能力を涵養する。	作文というより、普通の句、短文を正しく書けるようになること。基礎さえしっかり出来れば、あとは表現したいことを自分で工夫して上手に書けば宜しいです。	0.2	0.2	0.3	0.3
K114100	ロシア語講読	ロシア語の基礎的な知識を有する人と、簡単な文学作品から、時事ロシア語まで、ひととおり「文体」を体験したいと思う。とくに動詞のアスペクト（体）に注意し、書き手の論理性と使用語のニュアンスを掘り下げる。ロシア語のいちはやはり動詞のアスペクト。英語や日本語との比較によって鮮明にする。	現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につける。	これまで身につけた語彙の整理と文法知識の再確認。ロシア語をじっくり味わいたい。	閉講			
K114208	ロシア語会話	この授業では、短い平易な会話文を使いながら、まずは発音、アクセント、イントネーションを徹底させていきます。さらに、購読や文章表現力の基礎となる、最低限の基礎的語彙・文法事項・基本構文の習得を目指します。	自国の文化だけでなく、他国の人々の文化や思考形態に接することにより、広い視野を持ち、多角的、総合的に物事を判断する己の視点を育てる基礎となるはずです。	最終的には、平易な文を理解し、それを自分で表現できるようにすることが本授業の目標です。	閉講			
K114305	ロシア語文章表現	この授業では、日本語からロシア語への平易な文の言い換えを行う力をつけていきます。	自国の文化だけでなく、他国の人々の文化や思考形態に接することにより、広い視野を持ち、多角的、総合的に物事を判断する己の視点を育てる基礎となるはずです。	ロシア語の単語が原形で示され、配布する文法表があれば、これをもとにそれらの単語を必要な形に変化させ、構文を考え、正しいロシア語文を自力で作成する力をつけることが、本授業の目標です。	閉講			
K115107	タイ語講読A	タイ語入門を履修した初級程度を受講者を対象に、小学校高学年レベルの教科書や新聞、雑誌の記事など様々な文章を読み、読解力を高める。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉で理解するための基礎学力を養成する。	中級レベルのタイ語の文章を読み、単語力を高めるとともに、単語区切り、文章のつながり、切り方などを学び、基礎的な読解力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115108	タイ語講読B	タイ語講読Aを履修した中級程度を受講者を対象にタイ語で書かれた社会科学系の文献を講読する。タイ語の特長である難解な長文への読解力を高める。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉でより深く理解するための基礎学力を養成する。	タイ語の専門書を読むために必要な単語力、読解力ならびに専門書を批判的、論理的に把握する力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115212	タイ語会話 I	タイ語会話の基本表現を学ぶ。さまざまな場面の会話の教材を使い、基礎的な会話能力を向上させる。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉で理解するための基礎学力を養成する。	学習した単語、文法、表現などを積極的に運用し、タイ語による聞き取りやコミュニケーション能力の基礎を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115213	タイ語会話 II	短期集中訓練等によりタイ語の実践的な会話能力を要請する。6回の事前指導に置いて日曜会話の様々な場面に使う基本単語、文法、表現などを学習・訓練する。2日間の短期集中訓練においては、基本的にタイ語のみの会話を実践する。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉でより深く理解するための基礎学力を養成する。	タイ語による聞き取りやコミュニケーション能力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115301	タイ語文章表現	中級レベルの文法と単語を用い、絵本を題材として日タイ両国の文化的な背景の違いにも留意しながら、タイ語の文章を作成する。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語の文章を作成する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉で表現するための基礎学力を養成する。	タイ語の作文を行うことにより、中級レベルの文法と単語力を定着させるとともに、タイ語の文章表現の基礎的な力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K116150	朝鮮語講読B	中級レベルの文法を生かして、ある程度まとまった量の韓国語の文章を読みます。	中級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養います。	中級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養います。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K116103	朝鮮語講読A	基礎で学んだ文法を生かして、ある程度まとまった量の韓国語の文章を読みます。	初級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養います。	初級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116200	朝鮮語会話	基礎で学んだ文法を使って実践的なコミュニケーション能力の訓練を行います。	中級レベルの会話運用能力を養うと同時に韓国語と関連した知識を深めます。	日常によく使う表現から学校生活、趣味活動、人間関係、将来の夢など自己の考えを表現できる運用能力を養います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116200	朝鮮語講読C	中級以上の文法を使って、新聞のコラムやインターネットの記事、エッセイなどの文章を読みます。	中級から高級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養います。	中級から高級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養いつつ、韓国の文化や歴史、政治、文学、時事問題などに関する専門用語をも覚えます。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116201	朝鮮語講読D	卒業研究に必要な韓国語文献（研究書、学術論文、学位論文など）を読みます。	高級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養います。	高級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養いつつ、文化や歴史、政治、文学、時事問題などに関する専門用語をも覚えます。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116324	朝鮮語文章表現	韓国語で文章を書くために必要な文法事項や作文しにくいと思われる語彙、単語結合、表現などを学びます。	中級レベルの作文運用能力を養うと同時に韓国語と関連した知識を深めます。	辞書を使わず、自己紹介や趣味活動、学校生活などやさしいテーマを500字程度で書くことができるようになります。	0.2	0.2	0.3	0.3
K117100	スペイン語講読A	スペインの生活、文化に関連したテキストに加えて、雑誌記事、パンフレット、チラシ、コラム、新聞記事、インターネット記事等を用いて読解力を養成するとともに、基本語彙の増加、基本文法の復習、テキストの音読、ヒヤリング問題も取り入れた授業を行う。	・(A) 地域的に特化・深化した知識・認識を有する上で必要なスペイン語に習熟する。・(C) 文献の講読や実地調査等の際に必要なスペイン語に習熟する。・(D) 自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重するために必要なコミュニケーション能力を養う。	現在のシラバスに記載なし	0.2	0.2	0.3	0.3
K117150	スペイン語講読B	スペインやラテンアメリカ諸国の伝統音楽や現代ポップス音楽を用いて、歌詞の内容を理解し正しい発音を習得するとともに、スペイン語圏の社会や文化に関する読み物の読解、基本語彙の増加と基本文法の確認、テキストの音読やヒヤリング問題も取り入れた授業を行う。	・(A) 地域的に特化・深化した知識・認識を有する上で必要なスペイン語に習熟する。・(C) 文献の講読や実地調査等の際に必要なスペイン語に習熟する。・(D) 自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重するために必要なコミュニケーション能力を養う。	現在のシラバスに記載なし	0.2	0.1	0.4	0.3
K117151	スペイン語講読C	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読めるように練習します。	本演習は国際学部の専門外国語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の講読を学習したい学生を対象とします。	初級文法を復習しながら、辞書を使えばある程度文章が読めるようになることを目指します。	0.2	0.2	0.3	0.3
K117152	スペイン語講読D				0.2	0.1	0.4	0.3
K117200	スペイン語会話	スペイン語圏への観光、留学、就職などについて、日常生活の場面に応じた会話を養成します。	本演習は国際学部の専門外国語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の会話を学習したい学生を対象とします。	スペイン語は、文法的には奥が深いですが、日本語と同じ母音があるため、日本人にとっては他の外国語より発音が難しくありません。授業ではこのポイントを強調し、スペイン語圏への観光、留学、就職などについて、日常生活の場面に応じた会話を養成します。	0.2	0.2	0.3	0.3
K117350	スペイン語文章表現	スペイン語圏への留学、旅行、就職などについて、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を書けるように練習します。文の構成を考慮しながら、インフォーマルとフォーマルを区別して、要求、招待、感謝、報告、お勧め、いろんな表現を伝えられるようにします。	本演習は国際学部の専門外国語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の文章を書く学習したい学生を対象とします。	初級文法を復習しながら、辞書を使えばある程度文章が書けるようになることを目指します。	0.2	0.2	0.3	0.3
K119050	地球市民社会論	本授業では、地球市民社会、特に地球市民社会の中でも特に重要な担い手である国際NGOについて学びます。地球市民社会の意義、役割、定義、起源と歴史、発展の流れ、文化、欧米諸国・アジア諸国・日本の地球市民社会について論じ、地球市民社会の基礎と実践を理解することを目標とします。		本授業の到達目標は、地球市民社会の全体像を把握し、地球市民社会の基本的な知識を学ぶことです。	0.3	0.3	0.1	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K119051	情報処理	この授業では、「情報処理基礎」で学んだことを発展させ、現代社会に生きるために不可欠な情報処理能力を高めることを目的としています。	コンピュータを利用した情報の収集、収集した情報の分析・加工など、国際学を学ぶ上で必要とされる情報処理能力を身につける。	①あらゆるパソコン操作の基礎となるブラインドタッチを完璧なものにする。 ②必要な文献の所在を学内・学外から探し出し、入手できる能力を身につける。また、文献データベースの使い方を理解し、必要な論文を入手する能力を身につける。 ③文書作成ソフトWordの基礎を確認し、より高度な文書加工能力を身につける。 ④表計算ソフトExcelの基礎を確認するとともに、式や関数などより高度な操作方法を身につけます。また、数値データの種類とその性質を理解し、わかりやすく表やグラフで示す方法を理解してもらいます。 ⑤プレゼンテーションソフトPower Pointの使い方および効果的なプレゼンテーションの方法を身につける。	0.2	0.2	0.4	0.2
K119053	情報処理	勉学や卒論作成に必要な、情報検索、文書作成、データ処理、図表作成等を中心に勉学する。また、PowerPointによるプレゼンテーション技術を身につける。	国際学やそれに関わる知識やデータ、情報を能動的に獲得し、客観的に分析し、主体的に情報発信する力を養うための基礎技能・表現の養成に関連する。	国際学の勉学・研究さらに将来の社会活動において役立つ電子的情報の処理法・活用法を身につける。	0.2	0.2	0.4	0.2
K120011	国際政治論	第2次世界大戦及びその後の国際政治の歴史を、東アジア地域を重点に考察することを通じて、国際政治が直面している様々な問題、その由って来る所以を理解し、解決のためには何が必要かを考える手がかりを得るようになる。	国際社会学科の学習・教育目標に対応している。	戦争を廃絶し、平和を永続化するために、人類がこれまでに積み重ねてきた努力を評価し、その任を引く継いでいくことを理解する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K120020	国際法	本授業では、まず国際法の歴史を学ぶことにより、その根源的性質を探ります。国際法は近代欧州社会において成立、発展し、その後欧州列強の世界進出とともに国際法の適用範囲も拡大されてきました。ここに、今日でも完全には扶いきれない国際法のイデオロギー的特徴があります。日本が明治時代に「脱亜入欧」のスローガンの下に国際法教育に熱心だったことから、それがわかります。次に、国際法の基本的な理論・概念の問題として、慣習国際法、条約、国内法との関係について学びます。これらは、国際法のまさに基本知識ですので、詳しく説明します。国際法全般をカバーするには半期の授業はあまりに短いので、後半は、国際平和の維持に関する問題に焦点を絞ります。現代の国際社会において武力行使が正当化されるためには、あくまで国際法にのっとったものでなければなりません。国際社会を「無法地帯」にしないための国際法の営みとその問題を問うていきます。	国際法とはどのような法であり、どのように機能しているかを理解することにより、外交、国際紛争、グローバルな問題等国際社会の事象を考察、評価する際の重要な根拠を習得できます。また、国際時事問題に関連するリーガル・マインドを養うことができます。	国際社会の法である国際法は、国際紛争を解決する基準・手段として用いられ、また人権保護や地球環境保護といった人類共通の利益を追求するために使われています。また、それを利用する主体も、諸国政府、国際組織、民族団体、個人、企業、NGOなどさまざまです。国際政治、国際経済、武力紛争、人権、環境、軍縮などの国際社会の諸問題に取り組むとき、またそうした問題を分析、評価するとき、国際法は重要な根拠となるものとなります。本授業は、国際社会の現実の諸過程で使われる国際法が、どのような法であるのか、またどのように機能しているのかを、理解することをめざします。	0.3	0.3	0.2	0.2
K120038	国際経済論	国際経済に関わる事象の中で、貿易・投資、企業経営（「企業の社会的責任」の問題を含む）に関する問題を扱う。	1) 多様な側面と特徴をもつ社会の諸問題を分析的に理解する。 2) 上記諸問題の中で経済的プロセスの位置づけに関する理解を深める 3) 参考文献・資料などを通じ自発的に学習する姿勢を養う。	1) 多様な側面と特徴をもつ社会の諸問題を分析的に理解する。 2) 上記諸問題の中で経済的プロセスの位置づけに関する理解を深める 3) 参考文献・資料などを通じ自発的に学習する姿勢を養う。	0.5	0.2	0.1	0.2
K120046	国際社会論	日ごろ大量に消費しているモノに注目し、その生産・流通・消費・廃棄のプロセスを探る	身近な消費生活とグローバルなモノの移動を繋げて理解する能力の育成に関連する。また、消費という行為の問題性を自覚する知識の獲得に関連する	身近な消費生活に関心を持つ。普段何気なく消費しているモノが手元に届くまでのプロセスを知る。グローバルなモノの移動に焦点を当てながら、グローバル化の様々な側面や意味について考える力を養うとともに、自らの消費行動の問題性や課題に自覚的になる	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130017	東北アジア論	人文地理学的な視点から、東北アジアの社会文化的状況とその地域的背景を解説し、日本の近隣地域への具体的理解を促す。	「アジア比較地誌論」で扱った広域的・包括的な内容を、東北アジア地域に絞って具体的に掘り下げ、理解の深化を図る。また、高校地理歴史及び中学校社会の教員免許取得のための科目群の1つとして開講する。	1. 東北アジアの地誌的基礎の上に、いくつかの地域事象の考察を通じ、当該地域の特性と動向への理解を深める。 2. 歴史的・政治的な関心から評価の分かれやすい東北アジア諸地域の状況に対し、適切な資料批判を前提として合理的に考察・判断しようとする態度を養う。 3. 理解の深化や課題の抽出に向けた統計データ・地図・景観写真等の活用について理解を深める。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130025	近現代中国論	中国の近代史が欧米列強・日本による侵略とそれへの抵抗の歴史であり、それ故に今日の中国において「統一」ということが極めて重視されていることを理解する。また、中華人民共和国の歴史を踏まえ、伝統的要素と社会主義という西洋的要素の相克からなる近現代中国の理解に努める。	国際社会科学部の学習・教育目標に対応している。	中国にとつての近代の意味を理解し、21世紀に大国への道を歩む中国のもつ可能性、問題点を理解する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130033	東南アジア論	東南アジアの地勢と歴史をふまえて、現代東南アジアの社会・経済・政治の諸相と動態を論じる。講義の展開にあたっては日本との関係を意識し、また事例としてはタイを中心に挙げる予定である。	国際社会科学部の選択科目であり、アジア地域を深く学習し、専門的な知識を身につけ、実証的かつ合理的な思考力を養成することをめざしている。	東南アジアの歴史や社会・経済・政治に関する基本的な知識を得るとともに、それらに関する論理的な思考力・判断力を身につける。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130041	中東地域研究	中東地域に関する基本的知識を獲得する。また、中東地域を例に、地域研究の具体的な研究方法を理解する。	(A) 地域研究として、領域横断的に対象を把握することが重視される。(B) 地域研究として、地域間比較の観点から重視される。(D) 日本とは異なる中東地域への理解が重視される。	・国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。 ・異なる地域社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決する方法を獲得する。	0.3	0.3	0.0	0.4
K130053	現代ロシア論	冷戦期には、アメリカとならぶ超大国として、世界中に強大な影響力を行使してきたソ連も、1991年末に崩壊し、今日ロシア連邦共和国が、領土や国民の多くを引き継いでいる。いまや超大国の地位を失いは下が、アメリカと同等の核を保有し、強大な軍勢力を依然として保持している。国内では、一時は経済の悪化によって政治が不安定化し、チェチェンなどの民族問題でも揺さぶられていた。日本との関係を見れば、北方領土問題を解決することが日本側の目標となっていたが、ロシア側が難色を示し、現在まで問題の解決に至っていない。 本講義では、1992年のロシア連邦の成立以降、今日までのロシアの状況を概観していく。さらに、日ロ関係の歩みを踏まえて、今日の北方領土問題の核心は何かを明らかにする。くわえて、ロシアと密接な関係のある東欧諸国、とくにポーランドに関して言及していく。	基本的な知識の獲得、歴史的な考察・分析力、自発的な学習態度の養成に関連する。	ロシア・東欧の政治・経済・外交の現状を十分に理解する。	閉講			
K130084	経済学概論	社会経済学（マルクス経済学）の視点から、現代の中心的な社会システムである「資本主義」の仕組み・特徴・問題点について、学習する。	国際学部・国際社会科学部の選択科目（1年次）に位置付き、経済学の習得のために必要不可欠な、基礎理論や基礎知識の習得を目標とする。	社会経済学の基礎理論を習得するだけでなく、世の中の経済問題や社会問題について、自分の頭で、多面的、総合的に考え直す「社会科学」の発想の仕方を身につけることを目標とする。	0.2	0.3	0.1	0.4
K130092	ミクロ経済学	講義形式。		ミクロ経済学の基礎を身につけ、経済学の考え方、センスを習得する	0.4	0.3	0.0	0.3

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130106	マクロ経済学	現実の経済では、家計、企業、政府、中央銀行などの経済主体がさまざまな経済活動に携わっています。こうした経済主体による経済活動が一国の経済に及ぼす影響を分析することがマクロ経済学の課題であり、そこから有効な経済政策を導出することがマクロ経済学の役割です。経済活動と景気循環や経済成長、経済政策との因果関係を理解することがこの講義の目的です。	本講義は、経済的な知識と理解力を深めることによって、農業経済学を学ぶ基礎学力を高めるものです。	新聞等で日常的に目にする経済に関する事項、語句等に関する理解を深める。また、経済政策と経済成長との因果関係に対する理解を深める。	0.5	0.5	0.0	0.0
K130114	経済政策論	財政政策・金融政策などの経済政策が、景気や雇用・物価などの経済に与える影響を、マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。	地域社会の様々な問題を理解し考察するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための科目である。	・現実の経済政策、とくに財政政策および金融政策の運営についての理解力と判断力を身につけること。	0.5	0.4	0.0	0.1
K130122	財政学	財政とは、国や地方自治体などの公共部門の経済活動のことである。その規模はGDPの大きなウェイトを占めており、現代経済は財政を抜きに語れない。本講義では、日本の財政の仕組みや原理を概観しつつ、財政民主主義の視点からその課題を検討することにある。なお、講義では主に財政支出（経費論・公共投資・社会保障）を中心に扱い、租税論は簡略化する。また、公務労働を目指す学生を念頭に置き、特に地方財政に力点を置いて講義を行いたい。	経済学、政治学等の基礎社会科学の応用社会科学の位置にあり、2年生後期の必修科目に位置づけられている。	1, 財政の基本的仕組みと財政民主主義の理解 2, 財政の経済的機能の理解 3, 公共投資, 社会保障政策の理解 4, 財政赤字と財政再建問題の理解 5, 地方財政の仕組みと地方分権の理解	0.3	0.3	0.1	0.3
K130130	国際金融論	金融・資本市場の諸問題や今日のグローバリゼーションと呼ばれる現象の中で、ある意味で典型的である。本講義では、これらの問題を理解する上で、基礎的な構造を理解することに焦点を当てる。	(A) 国境を越えて活動する資本移動や変化の激しい金融・資本市場の構造について理解を深める。 (B) 事実経過だけではなく、その基礎にある経済法則や諸カテゴリーにて浮いて理解を深める。 (D) 参考文献・資料などを通じ自発的に学習する姿勢を養う。	1) 国境を越えて関連する金融・諸本市場の構造について理解を深める。 2) 国際金融に関わる諸問題について基礎的なカテゴリーに基づき考察できる。 3) 参考文献・資料の購読を通じ、専門的知識やカテゴリーについて理解を深める。	0.5	0.2	0.1	0.2
K130149	途上国経済発展論	国連を通じて「ミレニアム開発目標」が合意されましたが、その最大の課題である「貧困」を、世界はどのように捉えているのでしょうか。本講義は、「貧困」が集中していると考えられている「発展途上国」に焦点を当て、「貧困」の定義や関連データ、さまざまな発展・開発に関する理論を学びます。	①知識・理解：発展途上国の発展に関するさまざまな理論を学習することによって、多角的に理解を促す。 ②思考・判断：発展途上国の具体的な現状を、学んだ理論を応用し、考察する。 ③技能・表現：発展途上国の発展に関して、具体的事例を調べ、分析・発表・レポート作成する力を養う。 ④関心・意欲・態度：発展途上国の人びとの現状を、さまざまな観点から理解しようとする力を養う。	・「貧困」に関する多様な概念の理解と考察ができることと、発展途上国の「貧困」に関連するデータの理解と活用ができること。 ・開発・発展に関する多様な理論とその歴史・系譜を理解できること。 ・産産論、人間開発論、内発的発展論などの開発・発展に関する理論を理解したうえで、実社会について応用できること。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130157	日本経済論	日本経済の歴史の変遷と経済学の理論、政策の視点から考察する。	資料を収集し、分析し、まとめ、個人的意見を加え、グループワークにより課題解決をすること、つまり、物の見方、考え方、感じ方を整理するとともに、文章表現能力、発表能力を養成することに力点を置く。	日本経済の現状について基本的な知識を習得するとともに、日本経済の今後の進むべき方向性について、主体的に考える能力を習得することを目標とする。	閉講			
K130203	日米関係論	日米関係の歴史を体系的に理解したうえで、現代の両国関係を課題ごとに考察し、分析する方法を学習する。	日米関係に関する基本的な知識を、歴史、政治、経済、法、社会等の他分野に渡って身に付ける。さらに現代における日米関係を実証的に考察し、その内容を正確な日本語で表現する能力を養成する。	・日米関係の歴史を体系的に理解し、基本的な知識を身に付ける。 ・現代における日米関係を、歴史的な視点を取り入れながら課題ごとに考察し、分析する。 ・専門書を読み、その内容について批判的に考察し、考察内容を正確な日本語で表現する。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会科学 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130205	アメリカの経済と社会	・戦後アメリカ経済の歴史的發展過程を対象とする ・法治制度や社会的過程との相互作用を対象とする。	(A) アメリカ社会が形成された歴史的過程について総合的な理解をする視点を養い、またそれと経済過程の相互作用を理解する。 (B) 法治制度と経済過程の相互作用について合理的に考察する能力を養う。 (D) 参考文献・資料の購読を通じ、より広い専門的知識を獲得する。	1) アメリカ社会・経済の直面する問題を歴史的経過を踏まえながら理解する。 2) アメリカ社会・経済の変化にある背景や、構造的要因について考察できる。 3) 参考文献・資料の購読を通じ、専門的知識やカテゴリーについて理解を深める。	0.5	0.2	0.1	0.2
K130220	国際時事問題	国際政治、経済、安全保障にわたる最新の出来事を取り上げ、新聞・雑誌などの記事を読みながら、国際情勢の構図を探っていきます。	(A) 知識・理解：世界で現在起きている出来事を素材に、その国・地域の歴史や文化背景、政治経済の基礎的な情報を知り、大づかみに構図を理解する。(B) 思考・判断：国際社会の価値観に照らしながら、世界で起きている出来事的重要性や日本にとっての意義を考え、同時にニュースとしての価値判断も考える。(C) 技術・表現：講師は第一線の新聞記者であるため、できるだけ頻繁に新聞記事に親しむことを勧め、筆記試験では他人に理解してもらおうための文章の平易さやデータの工夫を課題にする。(D) 関心・意欲・態度：特に発展途上国や貧困国、紛争国において、文化理解を踏まえたうえで、情勢の改善に向けて何が必要か、国際社会と日本の課題は何か、具体的、実戦的に考える	●国際情勢を見る目を養う ●グローバル化の行方に対する関心を高める ●世界各地で苦境にある人々への共感を大事にする	0.3	0.3	0.2	0.2
K130254	国際協力論Ⅰ	国際協力の仕組み、方法、現状の考察を通して、国際協力をマクロ(動向、政策)およびミクロ(実践、現場)の2つの観点から理解します。国際協力を学問的な分析と現実の実践との関係性から、多角的に捉える態度を身につけます。	(A) 知識・理解：国際協力を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。 (B) 思考・判断：異なる地域における国際協力の諸問題を比較し、合理的に考察できる。 (C) 技能・表現：講義を主体的かつ批判的に分析し、論理的な考察を加えて文章化できる。 (D) 関心・意欲・態度：国際協力に関心を持ち、文化の相違を尊重して、問題解決のための行動の必要性が理解できる。	1. 政府開発援助、NGO援助および草の根の開発方法の基礎を学びます。 2. 地球規模の課題のうち、少なくとも3課題について理解します。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130262	国際協力論Ⅱ	参加型開発は、どのような専門分野の人間も実践できる優れた開発手法です。途上国の人々の考え方に立脚して、途上国の人々から学びながら開発事業を立案する方法を、密度の高い演習およびワーク方式で、英語の文献をもとに学びます。学生には毎回、課題の提出を求めます。担当者がパワーポイントを用いて発表し、全員で討論します。	(A) 知識・理解：参加型開発の方法を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。 (B) 思考・判断：異なる地域における参加型開発の方法を比較し、合理的に考察できる。 (C) 技能・表現：講義で与えられる課題を分析し、論理的な考察を加えて議論できる。 (D) 関心・意欲・態度：参加型開発に関心を持ち、文化の相違を尊重して、問題解決できる行動が身につく。	1. 参加型開発の少なくとも5つの手法が理解できる。 2. 英語の文献が文法的に正確に読解でき、英語の図表類を読み解くことができる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130270	国際人権法	「国際人権法」とは、国連などによってつくられた人権に関する条約や宣言、そしてそれを実施するための国際的および国内的な制度や手続の体系をいいます。本授業では、まず国際人権法の概観をした上で、その発展の歴史をたどります。第2次世界大戦後人権問題が国際関心事項として確立してゆく過程として、国連で世界人権宣言や国際人権規約といった中核的人権文書が生まれる背景・経緯とその特徴を述べます。次に、国際人権法が国内的にどのように実施されているかを、日本の裁判例を中心に説明します。日本に対する国際人権法の影響と日本社会の受けとめ方がわかるといえます。そして、国連を中心に国際人権保障システムの展開と機能を検討してゆきます。これは国際人権法の最も独創的な産物ですので、人権条約によるシステムと国連憲章によるシステムに分けて詳しく述べます。また、そこで人権NGOが大きな役割を果たしていることを確認します。最後に、ヨーロッパ、米州、アフリカに存在する地域的人権保障システムの重要性を学び、それがアジアにおける課題を考えます。	国際人権法の役割と基礎知識・理論を学ぶことにより、世界や日本社会における人権の現状やあり方を考える上での基準を習得することができます。また、人権問題に関わるリーガル・マインドを養うことができます。	今日人権問題は、一国の国内問題にほどまらず、国際関係の重要なテーマとなっており、その際国際人権法をふまえて議論することは不可欠です。日本も国際人権法の影響を否定なく受けており、人権条約の締結、国連機関による人権問題の指摘や勧告、国内裁判例による人権条約の適用などを通じて、日本社会における人権のあり方を変える契機となっています。本授業では、実践的に活用される国際人権法の基本的な知識と理論の全体像を学びます。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130289	憲法 I	まず、本講義は学科の専門科目なので、教養教育科目の「日本国憲法」のように憲法の全体像に広く浅く触れるような内容ではないことを断っておきます。そのうえで本講義では、「刑事事件をめぐる憲法上の諸問題」という基本テーマを設定し、日本国憲法31～40条を中心に、刑法・刑事訴訟法・少年法等の各種刑事法令とその判例を憲法上の視点から検討します。	教養科目「日本国憲法」で得た知識を基盤とし、刑事手続きを題材として憲法の主たる役割である人権保障の原理を修得します。その後さらに「憲法Ⅱ」および「比較憲法論」を履修することによって、憲法の全体像が把握できることをも企図しています。	刑事事件を題材に社会で生起する個々の問題を法的論理に基づいて考えることができるようになることを目指します。あわせて、毎講義後に各履修者がリアクションペーパーを書き、それを次の講義でフィードバックすることにより、論理的な文章の作成能力養成をも企図しています。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130297	憲法Ⅱ	具体的には、「日本国憲法」(人権総論・天皇制・平和主義)と「憲法Ⅰ」(刑事手続きにおける人権保障)以外の、憲法分野を取り上げます。「2005年秋、フランスの若者は車に火をつけることによって、日本の若者は小泉自民党に投票することによって、それぞれ現状への不満を表した」——ある日本人作家の発言です。この発言的を射ているとしたら、日本の若者はなぜ、このような行動をとったのでしょうか。そもそも、若者が今の社会に対して抱く不満や鬱屈とはどのようなものなのでしょうか。逆に、社会(大人たち)は若者に何を求めているのでしょうか——。このような視座に立ち、日本国憲法を手がかりにして、受講者と共に「いま、日本で起きていること」を考えてゆきたいと思っています。	教養科目「日本国憲法」および「憲法Ⅰ」で得た知識を基盤とし、憲法の主たる役割である人権保障と統治機構の原理を習得します。さらにその後「比較憲法論」を履修することによって、憲法の全体像が把握できることを企図しています。	社会で生起する様々な問題を法的論理に基づいて考えることができるようになることを目指します。あわせて、毎講義後にリアクションペーパーを書き、次の講義でフィードバックすることにより、論理的な文章の作成能力養成をも企図しています。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130300	比較憲法論	「ナショナリズムと共和主義」および「生命倫理」という2つの基本テーマを設定し、欧米諸国、とくにアメリカ・ドイツ・フランスと日本の法制度や判例の比較を通して、異文化理解の在り方を考えることを目標とします。本講義を通じて(「比較憲法論」というよりも)「比較文化論」という学問の面白さと難しさを感じて頂ければ幸いです。	教養科目「日本国憲法」および「憲法Ⅰ」と「憲法Ⅱ」で得た知識を基盤とし、日本国憲法と欧米趣向の憲法を比較検討することにより、立憲主義・民主主義・人権保障等といった現代憲法原理の普遍性を再検討すると同時に、民族・文化等に起因する相違点を客観的に考えることを企図しています。	日本社会で生起する様々な問題を法的論理に基づき、かつ文化相対主義的視点にも十分配慮しながら考えることができるようになることを目指します。あわせて、毎講義後にリアクションペーパーを書き、次の講義でフィードバックすることにより、論理的な文章の作成能力養成をも企図しています。	閉講			
K130327	行政法Ⅰ	行政法は権力の側面を問題とする学問である。近年、国家は行政権の権限範囲を拡大し、新しい権力構造を必要とする。行政法Ⅰの授業では、この権力構造の理論的理解を目的とする。	法学の一分野である行政法学の学習を通して、国家・社会・個人を理解する。このことを通して、学問の楽しさと実践的な課題を処理する能力を身につける。	行政権力の理論的把握および行政権力の濫用から市民の権利を守るための様々な方法を理解し、応用できる能力を身につける。	平成24年度担当者なし			
K130335	行政法Ⅱ	行政法は権力の側面を問題とする学問である。近年、国家は行政権の権限範囲を拡大し、新しい権力構造を必要とする。行政法Ⅱの授業では、この権力構造の理論的理解を目的とする。	法学の一分野である行政法学の学習を通して、国家・社会・個人を理解する。このことを通して、学問の楽しさと実践的な課題を処理する能力を身につける。	行政権力の理論的把握および行政権力の濫用から市民の権利を守るための様々な方法を理解し、応用できる能力を身につける。	平成24年度担当者なし			
K130343	行政学	行政学の誕生、学説史、政府関係論、政策分析、管理学といった行政学の基礎概念を体系的に把握する。	行政学の基礎知識を身につけることで、国内・国外に通用する視野を身につける。	変動する政府活動や政策の課題を把握する力を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130351	地方自治論	地方自治体が抱える諸課題、すなわち行財政改革や地方議会との関係、住民参加、自治基本条例の策定、総合計画の策定等に関して、具体的な事例を挙げながら講義を進める。また、受講生が自らテーマを設定してレポートを作成する。	地方自治体が提供する公共サービスやNPO、企業、住民との協働・連携のあり方や課題を具体的事例に則して理解する。	地方自治の様々な諸課題を総合的な視野で捉えられるようにする。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130360	余暇政策論	新聞報道を素材にして、余暇政策領域に関する具体的な話題提供を行った上で、受講生が自らテーマを設定してレポートを作成する。	余暇政策領域が提供する様々な素材を横断的に眺める力を身につけると同時に、余暇空間を充実させるための方策を探る意欲と能力を身につける。	余暇領域に対する関心や身近な素材を拾い上げる視点を養い、さらに余暇政策領域が提供する様々な素材を横断的に眺める力を身につけると同時に、余暇空間を充実させるための方策を探る意欲と能力を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130378	民法Ⅰ	民法総論、総則、所有権、担保権など、民法を学ぶ上での基本的知識および体系について段階を踏んで説明する。	社会の諸問題を解決するための市民生活を送る上で必要不可欠な民法の基礎知識を習得することを目的とする。	民法総論のみならず、不幸行為、親子や親族をめぐる問題、婚姻と離婚、相続、さらには後見制度についての理解を確実なものとする。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130379	民法Ⅱ	民法の基本原則や基礎知識の習得を主な目的とするが、単に条文の内容や知識を学ぶだけでなく、法的なものの考え方を習得する。	豊かな生活とトラブルや行政紛争への柔軟な対応力を身につけるための応用的知識を習得することを目的とする。	日常生活を安全に快適にさらには豊かに送るためには民法をめぐる基礎的理解に加えて、その応用・実践理解能力が不可欠となることから、民法を生かした形での体系的知識や視点を獲得する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130408	タイ都市社会論	1980年代後半以降、急激な工業化・都市化を経験し、大きく変容しつつあるタイの都市を対象とし、社会学の立場から地域社会の現状と課題を論じる。授業では、現地調査の結果をふまえながら、首都バンコクにおける地域社会開発政策と地域住民組織の展開過程とその実態を中心に取り上げたい。	国際社会学選択科目であり、アジア地域を深く学習し、専門的な知識を身につけ、実証的かつ合理的な思考力を養成することをめざしている。	タイの都市社会とりわけ地域社会の現状と課題に関する基本的な知識を得るとともに、それらに関する論理的な思考力・判断力を身につける。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130415	東南アジア農村社会論	タイ農村を中心に東南アジア農村の特性を概説し、併せて東南アジアの社会と文化の特性について考える。	東南アジア論やタイ都市社会論、東南アジア論実習などとともに東南アジア社会論の学習の一翼を担っている。	タイ農村を中心として東南アジア農村の生活について基礎的な知識を習得する。	閉講			
K130424	東アジア社会論	中国を中心とした東アジア社会における「共同体」をヨーロッパ社会と対比しながら、理論的及び歴史的に検討します。	東アジア社会の特質を考察します。	人類社会における「共生」「共同」の役割を「共同多」から考察し、経済活動や人的結合から、地域社会の在り方を考えます。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130432	東アジア社会史	現代中国にとって最も激動の時代であった「文化大革命」と呼ばれた時期を中心として、毛沢東から鄧小平までの中国現代史を検討します。	隣国の中国を中心に、東アジアの現代史を理解して、国際理解の基礎的知識を獲得します。	わかりにくいといわれる現代中国を、その成立期から歴史的に検討し、胡錦濤が指導する現代中国がどんな時代なのか理解します。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130435	アフリカ論	皆さんのアフリカのイメージは、距離的に遠く、自分の生活との直接的な関係が分かりにくいため、少ない偏った情報から形成されているかもしれません。アフリカ大陸には多くの国々が存在し、地域によって異なる自然・社会環境の基で異なる歴史をもった様々な人々がそれぞれの生業のもとで生活しています。またアフリカ問題に関する誤解も流布しています。本授業ではその多様性・多面性の一部や現実を、アフリカから学びます。	①知識・理解 アフリカの社会・文化・自然環境・歴史に関して概説的な知識を広げるとともに、理解を深めます。 ②思考・判断 自らのアフリカに関する知識・理解を問い直し、アフリカを取り巻く環境や構造について考察します。 ③技能・表現 アフリカに関連するトピックに関して、調査し、まとめ、発表する力を養います。 ④関心・意欲・態度：アフリカの人びとに関する関心とともに、更に学びたいという意欲を喚起します。	・アフリカの地理的・文化的・社会的多様性について理解すること。 ・アフリカに関するステレオタイプが是正されること。 ・アフリカの歴史について概ね理解すること。 ・アフリカ問題とみなされる紛争に関する理解が深まること。 ・アフリカの貧困と豊かさについて理解すること。 ・アフリカに関して自ら課題を設定し、学ぶこと。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130467	ヨーロッパ思想構造論	ヨーロッパ思想における重要概念である「ドイツ・ロマン主義」について学びます。	国際学部生に求められる異文化理解力を身につけます。	「ロマンチック」とは何か、ということについて深く理解する。	0.3	0.1	0.3	0.3
K130475	日本語教育Ⅰ	この授業は、日本語教育についての「入門編」の授業で、基本的なことから（国内外の日本語教育の状況、主な指導方法、指導内容）について学びます。	日本語教育は国際社会や国内の社会状況と密接に関わっており、本授業は国際学養成の一翼を担うものである。	国内外の日本語教育の状況や日本語教育に必要な基本的なことから学び、日本語教育の概要を把握し、基本的な知識を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130491	都市計画	都市の歴史から、現況の法制度、都市問題等の、都市計画に関わる基本的な用語、概念、計画技法、整備手法を解説する	人間および社会の要求・条件を理解し、建築空間・環境・制度を構築する能力を身につける	・都市計画に関する基本的な考え方、概念、用語を習得する。 ・法制度、開発・保全の側面から、都市の基本的な構造を理解する。				
K130505	地区計画	地区レベルの計画は、我々の日常生活に直結した最小の計画単位である。本講義では、地区レベルを対象とした種々の地区の考え方、基本的な用語と概念、計画技法、整備手法等を教える。	建築コースの学習・教育目標；(6) 建設工学コースの学習・教育目標；E	1、地区計画に関する基本的な考え方、概念・用語を習得する。 2、地区の保全と整備に関する都市計画の手法と事業の進め方について習得する。				
K130513	地域社会論Ⅰ	学生にとって、地域社会とは身近な存在ではありません。とくに「田舎」・「僻地」といわれる地方社会のことは知らないことばかりでしょう。これは、都市部で生まれ育った学生ばかりでなく、地方で生まれ育った学生においても同様です。学生までの地域社会とのかかわりは限定的なものであるからです。そこで、本講義では、地域社会の中でも、とくに「田舎」・「僻地」と呼ばれる社会をとおして、地域社会について理解してもらうことを目標としています。	日本の地域社会の現状と変化、グローバル化と地域社会との関係を理解し、地域社会について考える力を養う。	①伝統的な地域社会とどのようなものであったのか、地域社会の現状はどうなっているのか、なぜ今のような状態になったのかを理解する。 ②この現状に対して地域の人々はどうに対応しているのかを理解する。 ③そのうえで、地域社会について考える力を養う。	0.3	0.3	0.1	0.3

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身に付け、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130521	地域社会論Ⅱ	非正規移住労働者や外国人の子どもたちに関わる問題を主に東アジア地域に焦点を当てて論じる。	国境を越える人の移動には様々な要因が関係していることを理解する力の養成に関連する。特に、経済のグローバル化と国家の入国管理や外国人・移民政策のあり方に対して問題関心を強める。外国人との「共生」を様々な視点から考える力を養う。	東アジアにおける国際的な人の移動の現状・背景・課題を理解する。日本および日本人が外国人に対してどのように向き合ってきたのかについて歴史を概観し、基本的な知識を得る。外国人労働者問題に関して主体的かつ批判的に分析する力を養う。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130560	地域分析基礎論	「位置」「地域」等の地理学の基礎概念を手がかりに、具体的な都市や国家の変遷と今日のようにして学ぶ。	国際社会科学における選択科目で、中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための必修科目。国土や地域に関する系統地理的考察を行うための視点と方法を修得する。	・地域的観点から社会事象をとらえることができる。 ・地形図の読図を修得する。 ・生徒が理解可能な地理情報を提示するための基礎的な力を身につける。	0.2	0.5	0.0	0.3
K130564	都市地理学	現代における社会・経済活動の中心となっている都市空間を主な対象として、その形成と、発展、変容、発展の背景を地域的視点から講述するとともに、都市空間の主要な捉え方を解説する。	都市地理学の基本的概念を理解するとともに、都市での地域的事象を多様な側面から考察し、それらの相互関係を理解することを通して地域的視点を養う。	都市空間における諸事象を時間・空間的に比較することで、分布やその偏りを理解し、その特色に基づいて場所の法則性（一般性）や個性（特殊性）を捉える「地域的視点」を身につけることを目標とする。具体的には①都市空間の形成と発展を自然環境や社会・経済的側面から理解するとともに、②一定の空間的広がりを持つ都市における特徴を多角的に捉え、都市空間の固有性と一般性を理解する能力を身につけることである。	0.4	0.3	0.2	0.1
K130572	人口地理学	人口地理学は、さまざまな人口現象（分布、移動、増減、構造、出生、死亡、結婚など）の地域的差異を探究する分野である。これらの人口現象のメカニズムを理解するためには、さまざまな人口統計を正確に読み取る技術と理論を学ぶ必要がある。本講義では、こうした技術と理論を紹介したうえで、具体的な人口統計データを示しながら個々の人口現象について解説を加える。	人口統計の見方を習得するためのさまざまな技術と理論を解説する。	社会科学の基礎となる人口統計の見方を習得する	0.4	0.3	0.2	0.1
K130599	計算機ネットワーク概論	情報化社会はコンピュータネットワークによって支えられている。この授業ではインターネットの利活用の仕方、インターネットの基礎知識や仕組みを中心に勉強していく。	情報化社会の諸問題に特化した知識の学習とその理解、IT情報技術・技能を身につけることに関連する。	コンピュータネットワークの仕組みを理解し、それらを情報の整理や、情報の共有、情報の発信に活用することを目的とする。	0.3	0.2	0.3	0.2
K130602	データベース入門	現代人は個人的な住所録をはじめとし、数多くのデータベースを利用している。この講義では、データベースソフト「Microsoft Access」を利用して、効率よくデータを管理し活用する基本的な知識を基礎から学びます。	国際学やそれに関わる知識やデータ、情報を客観的に分析する技能の養成に関連する。	データベースの基本を理解し、実用性のあるデータベースを自ら設計し管理するノウハウを身につけることを目標とする。	0.3	0.2	0.3	0.2
K130629	統計学	統計的データは世の中にあふれている。それらを無批判に受け入れるのではなく、その意味を正しい目で見直すことの必要性を説こうと思う。統計学はどうしても複雑な式を扱う必要があるが、それはやめて、豊富な実例をもとに、極力数式を用いなくて本格的な統計学に迫ろうと思う。	数学とはどういう学問なのかを知ること。小中高を通して学生諸君は問題の解き方ばかりで学問としての数学を習ったことはないと思う。数学の教員になるうえで数学を知らなければならないことは当たり前のことである。この授業はそのための授業であり、そのための題材は統計の諸概念である。	平均や分散の意味を理解すること 基本的な推定・検定ができ、その意味がわかること	0.3	0.3	0.1	0.3
K130655	社会福祉学概論	社会福祉援助のために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがある。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史、社会福祉援助技術の体系、思想などを考えていく。	専門教育科目のひとつとして、国際社会で起こっている諸問題の理解を促進する基礎となるものと位置づけられる。	・社会福祉を歴史を踏まえて理解する ・諸外国の社会福祉の歴史や制度を学ぶ ・社会福祉援助技術の方法論とその背景にある対象把握の考え方を理解する ・現代の社会福祉を考える上で基本となる思想について知識を得る	0.3	0.3	0.2	0.2
K130656	現代福祉事情	社会福祉法では地域住民の参加による地域福祉の増進や個人の選択に基づくサービス利用が原則として打ち出されている。この授業では、一人ひとりが福祉を作っていく主体であり、自ら選択している主体であるという自覚を持って、社会福祉や社会保障をよく理解し、利用できるような知識や考え方を学んでいく。	専門教育科目のひとつとして、国際社会で起こっている諸問題の理解を促進する基礎となるものと位置づけられる。	・日本の社会福祉の法制度や組織について把握する ・現代の社会福祉のや社会保障の問題の背景となる社会の状況について理解する ・社会福祉における国連の役割について理解する	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130657	※現代日本語 I	この授業は主に10月来日の日本語・日本文化研修留学生や交換留学生を対象とした中級後半～上級レベルの読解を中心とした日本語の授業である	この授業は本来日本語・日本文化研修留学プログラムの一つであり、同プログラム研修生や交換留学生が日本語能力をさらに高めながら日本の文化や社会についての幅広く知識を得るための中心的な科目として位置づけられている。	この授業の目標は多岐にわたるトピックの文章を取り上げ、精読や速読をし、上級レベルの文法や語彙、表現を学ぶとともに日本の社会や文化についての知識を深めることをめざすものである。	0.2	0.3	0.2	0.3
K130659	※現代日本語 II	日本語中上級レベルから上級レベルの留学生を対象に、日本の社会や文化に関するいくつかのトピックを取り上げ、他国との比較や時代的な変化を読み取ることを通して、現代の日本社会・日本文化へのより深い理解と共に、日本語能力の一層の向上を図る。	留学生を対象とした科目であり、現代日本と日本語に対する理解と認識を深めることを目指す。	読み物や統計資料、調査発表等を通して、現代日本社会及び日本文化の様相を多面的に考察し、日本への関心と理解を深めることを目指す。また、授業で取り上げたトピックに関する考察について口頭及び文章で述べるようになることを目標とする。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130660	日本語教育方法論	日本語教育の方法や教材について学び、地域社会及び国際社会において日本語教育を進めていく上で基盤となる知識と技術を養う。合わせて、子どもへの日本語教育についても触れる	外国語としての日本語という視点から自らの言語文化・言語行動をふり返るとともに、言語の問題を主体的かつ具体的に考える。	外国人に日本語を教える際に必要な教育方法や教材に関する専門的な知識を身につけ、学習目的や学習レベルなどの多様性に応じた教育方法や教材について客観的かつ分析的に自ら考えることができるようになることを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130661	自然地理学	自然地理学に含まれる地形・気候・陸水・土壌・植生(学)などの諸領域のうち、「水」を中心テーマとして取り上げる。気体・液体・固体と姿を変え、たえず地表面や地下あるいは対流圏を巡っている水に着目し、その循環過程の中で繰り広げられている自然現象を取り扱うとともに、人間生活と水との関わり合いや関連性にも言及する。	人文社会現象の理解にも重要な意味を持つ自然的背景について関心と理解を涵養する。また、中学校社会および高等学校地理歴史の一種免許に関する必修科目として開講する。	これまでほとんど学習してこなかった「水」に関する基本的な事項を把握・理解する。また、国内や世界各地で展開されている水を取り巻く自然環境や社会・経済的環境における諸問題を通して、水の現状を把握・理解し、今後われわれが水環境や水問題にどう対処して行くかを考える契機とする。	0.4	0.3	0.2	0.1
K130688	日本語教育 II	世界の日本語教育・学習事情、そして、外国語としての日本語の特徴を、他の言語の場合と比較しつつ学びます。また、学習者の文化・社会的・言語的背景に起因する学習上の問題点を検討・分析します。教えることに関心がある人と学習者との共同作業による教授活動の実習や相互学習などを活動の中心とします。	国際社会における言語コミュニケーションの多様性を学び、外国語を学んで使う意義を考えつつ、それ自身が国際交流である教室活動を実践します。学習者への実際の取材にもとづく報告を最終課題とします。	関連諸分野の基本的な知識や情報をもとに、(特に海外において)与えられた状況やニーズに応じた日本語教育を構成する実際的な方法を身につけます。一般言語学的方法により日本語を相対化して見る視点を養い、言語自体についての理解を深めます。	0.2	0.3	0.2	0.3
K130689	言語コミュニケーションと類型論				0.3	0.3	0.3	0.1
K130692	外国語特殊講義Ⅲ(ロシア語)				0.3	0.2	0.3	0.2
K130693	外国語特殊講義Ⅳ(ロシア語)				0.3	0.2	0.3	0.2
K130694	外国語特別講義Ⅱ(ポルトガル語)	ブラジルポルトガル語基礎会話演習とブラジル地域・文化紹介	本講義は、国際学部共通の専門教育科目で、C“国際交流コミュニケーション領域”のC5外国語学習を中心として習得”に対応しています。	① 特別講義Ⅰで修得した基礎的な文法知識を生かし日常生活での基礎的なコミュニケーションができるようになること、標準的なブラジルポルトガル語を聞いて理解する能力を養うことを目標とします。 ② 南米の大国ブラジルとはどんな国か、また日本における日系ブラジル人社会についての知識や理解を深め、多文化共生に深く関わろうとする意識を養います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130695	外国語特別講義Ⅰ(ポルトガル語)	教員が用意する文法学習用教材やパワーポイントによる解説やそれに関わる演習問題等を通してポルトガル語の基本を習得します。また、「日本語がわからない子ども達に日本語を教える」という場面設定に基づき、日本で生活する外国人児童生徒の教育について考察します。 音楽や映像も効果的に使用して「楽しくてためになる」授業をめざします。	(A) 日本に居住する外国人の数が200万人を超え様々な分野に置いて問題が発生していることを踏まえ、言語習得を通すことにより考察する力を養う。(B) 第2外国語習得をイメージとしてとらえるのではなく言語を道具として認識し大切なことは道具を通して人と関わり合うことであることを認識させる。(C) 第2外国語を習得する上でのハードルを考え、学習者の共通知識である英文法と比較しながら難易度の低い授業を進める。(D) 習得した言語を直接的に生かす発想ではなく言語習得により異文化に関わる可能性を各々が探れるよう導く。	(1) ポルトガル(ブラジル)語の基本を習得し、簡単な文章の読み書きができる。 (2) 異文化への興味と理解を深め、多文化共生に関わる意識を養う。 (3) 日本に在住する外国人や外国人児童生徒に関わる諸問題について考察する。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際社会科学 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130696	国際学特殊講義Ⅰ (国際政治・文明と日本)	日本の現状・将来は国際政治を抜きにしては考えられません。この講義ではその国際政治をいかに把握すべきか、日本の在り方はどうあるべきかに念頭に置いて講義します。特に日本との重要な関係にある欧米、アジアの思想、文明観を探索し、更にアジアの主要国である日本、中国、インド、インドネシアに焦点を当ててアジアを分析します。その上で今日の課題である日本の安全保障（基地問題）、欧米とアジア文明の相違（21世紀の日本が学ぶべきこと）を演習としてグループ学習します。	「カリキュラムの学習・到達目標との関連」 日本の将来は、「国際化」をいかに適切に把握し対応できるかの教育如何にかかっています。従って、「国際化（グローバル化）」を国際政治・文明の観点から適切に把握し、かつ自国の依って立つ政治・文明形態を十分に理解・反映して対応することが大切です。この観点からカリキュラムを組み演習を考えます。	国際政治・文明の基本概念、今日的課題の把握と分析、21世紀アジアと日本の行方を学習の到達目標としたい。	0.2	0.3	0.2	0.3
K130697	国際学特殊講義Ⅱ	歴史的背景を考慮しながら、人口統計を踏まえた地理的条件が、どのように現在のラテンアメリカ各国家の経済状況を形成したのかを見ていきます。	本講義は国際学部の学科共通の専門選択科目であり、ラテンアメリカの政治、経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	本講義は近代ラテンアメリカとカリブ海地域の国家の位置、人口水準、主要な経済活動、産業、輸出、国際貢献、共通性、ラテンアメリカ内における体系的な分類という地理学的な視点から提示することにより、ラテンアメリカとカリブ海地域の国家について総合的に復習します。	0.3	0.3	0.0	0.4
K130698	国際学特殊講義Ⅲ	本講義は新大陸の発見、スペインによる征服から、植民地時代、独立、初期の共和制時代までを網羅し、これらの現代ラテンアメリカへの影響を考察します。	本講義は国際学部の学科共通の専門選択科目であり、ラテンアメリカの政治、経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	言語、宗教、習慣、信仰、社会的及び政治的な制度というイベリア半島の遺産の他に、スペインによる植民地支配の間に確立された重商主義のシステムは貧困と不平等、政治的権力の集中、汚職、競争の悪循環、ジェンダーと教育、制度上の欠陥、レントシーキングの蔓延といった現代ラテンアメリカ及びカリブ海地域を形成する経済的特徴の基盤となっています。	0.3	0.3	0.0	0.4
K130700	現代日本社会論	日本のホームレス問題を様々な角度から検討していく	人間の営みに関する広い事象・現象に対して積極的に目を向けることに関連する。また、社会から排除されがちな人々の「生」の厳しさの背景にあるものを理解し、かれらの「生」を通じて自己の「生」や価値観を問い直す態度や視点を要請することに関連する。	ホームレスの人々の現実に触れ、「家がない」ことが様々な問題とつながっていることを理解する。ホームレスに対する「同情」、「嫌悪感」、「共感」などを率直に出し合い、人間観・社会観について議論する。下層問題には国家による切り捨て、資本による使い捨て、市民社会からの差別などが深く関わっていることに関して認識を深める。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130701	グローバル・ガバナンス概論	本授業では、今日の国際社会にある南北問題、地球環境問題、債務問題、貿易問題に焦点をあて、これらの地球規模の深刻な問題の解決のためのグローバル・ガバナンスのあり方について考えます。	本授業は、専門科目として、グローバル・ガバナンスの応用的な知識を得ることを目標とします。	本授業の到達目標は、地球規模の深刻な問題とグローバル・ガバナンスの役割について理解し、グローバル・ガバナンスの応用編を学びます。	0.2	0.3	0.2	0.3
K160013	東アジア社会史演習	現代中国に関する概説的なテキストを素材としながら問題意識を獲得する。	必修科目である卒業研究を完成させる。	受講者の問題意識をより鮮明にして、卒業論文としてまとめあげるテーマを見つける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160021	東南アジア論実習	1980年代後半以降、急激な工業化・都市化を経験し、大きく変容しつつあるタイの都市を対象とし、社会学の立場から企業や地域社会の実態調査を行なう。	国際社会科学の実習科目であり、アジア地域に関する専門性を深め、主体的かつ批判的な分析力を養成することをめざしている。資料や専門書の読解と実地調査、論文作成のための方法論を学び、論理的な思考力・表現力を身につける。	東南アジアをフィールドとして、社会調査の実践的な能力を養成する。テーマの選択、仮説の構築、分析枠組の設定など、適切な調査設計を行う力を身につける。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160030	中東地域研究演習	中東地域を例にとり、地域研究の具体的事例を先行研究から学ぶ。	(C) 専門的な文献の読解し、批判を発表と議論を通じて行うことで、専門知識を深める。 (D) 自分たちとは異なる世界の社会問題に広く関心を持ち、社会の諸問題を解決する方法を考察する。	・異なる地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決する方法を獲得する。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160040	アジア比較地誌論演習	アジア地誌に関する文献を検索・整理するとともに、各自の関心に沿った専門文献の紹介や文献調査による課題研究を通して、国際学部専門教育科目「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」の講義内容に関する理解の深化と敷衍を図る。	卒業研究準備演習、卒業研究へと進む前段階として、先行する各種講義科目の学習内容をもとに、自らの研究課題の設定や既往研究の検索・整理の基礎的訓練を行う機会として位置づけられる。	1. 「アジア比較地誌論」ないし「東北アジア論」での学習内容を自分なりに敷衍させ、アジア諸地域の社会文化的多様性とその背景についてより深い理解を得る。 2. アジアにおける地域事象について、その意味や位置づけを相対的に把握できるよう、常に比較という観点からの考察・判断を重視させる。 3. 関連分野の基礎的文献を検索・入手して読み込み、内容を整理して研究発表の資料を作成するとともに、効果的でわかりやすいプレゼンテーションを行う能力を養う。 4. 自らの関心や問題意識に基づいて設定した課題に向けて、積極的に取り組むとともに、他の学生の研究発表に対しても、積極的かつ建設的に意見を述べる態度を養う。	0.1	0.3	0.4	0.2
K160060	地域社会論Ⅱ演習	文献や視聴覚教材を使いながら、問題意識、研究、論文とは何かという根本的なテーマを討論する。	文献講読や視聴覚教材の鑑賞を通じて、それらが主張している要点を的確に捉えるとともに、グループ討論を通じて理解力や発言力を高めることに関連する。鋭い問題意識をベースに行われている研究や取組に向きあい、自分自身の問題意識をより深めるための関心や意欲を育てる。	問題意識の重要性に自覚的になる。社会問題に広く関心を持つ。自分自身の問題意識の現状や課題について、整理し、表現できる力を養う。グループ討論を通じて様々な考え方や価値観に触れ、自己のものを相対化する視点を見つける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160064	国際関係論演習	国際関係に関連する分野の学術論文を読む作業を通して、専門的知識を深めると同時に、卒業研究の方法論を学習する。	国際関係に関する先行研究を正確に読み解き、その内容について論理的にまとめて文章化し、さらにみずから考えた論点について生産的な議論を自発的に行う能力を養成する。	・先行研究と自らの考察を区別し、比較しながら、法学的・政治学的な枠組みを使って思考、判断する。 ・国際関係論の専門書を読み、その内容をまとめて口頭発表し、議論する。 ・法的、政治的な国際問題についての情報を意欲的に収集し、自発的な学習態度を身に付ける。	0.1	0.3	0.3	0.3
K130025	近現代中国論演習	中国の近代史が欧米列強・日本による侵略とそれへの抵抗の歴史であり、それ故に今日の中国において「統一」ということが極めて重視されていることを理解する。また、中華人民共和国の歴史を踏まえ、伝統的要素と社会主義という西洋的要素の相克からなる近現代中国の理解に努める。	国際社会科学部の学習・教育目標に対応している。	中国の近代の特徴を理解すると共に、自ら課題を設定し、適切な発表を行い、また他人の報告を聞いて、問題点を把握し、議論することができる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160072	国際法演習	各自の関心のある国際問題や人権問題について個々にまたは共同して研究報告し、相互に討論し合うことにより、かかる問題についての知識と考察を深めます。	学生が自分自身の問題関心・問題意識を確認して、卒業研究準備演習や卒業研究の段階に進んでゆく橋渡しをします。	報告・討論を通じて、調査能力、説明能力、論理展開能力を養うことをめざします。また、国際問題や人権問題に対する関心とリーガル・マインドを養います。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160100	行政学演習	現在進行中に政策課題を取り上げ、現地調査を通じてヒアリング力や資料は把握の力を身につける。	取材力、アポイントメントの取り方、インタビューにおける誠意など他者との接触における礼儀を学ぶと同時に、取り上げた政策テーマに関する深い知識と鋭敏な視点を習得する。	多様な政策諸課題の中から、最も関心のあるテーマを自らの力で見出し、身近な素材からグローバルな事象まで、政策提案に不可欠な批判的かつ建設的視点を養成する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160102	地域社会論Ⅰ実習	日本の農山漁村などの地域社会を対象とした現地調査（フィールド・ワーク）をもとにした卒業研究を計画している学生を対象に、調査前の下準備（文献研究・調査計画など）、現地調査、データ整理と分析、報告書作成といった社会調査の一連の流れを実践的に行います。なお、調査手法としては、質的調査（聞き取り調査・参与観察など）に限定し、量的調査（アンケート調査）は行わないので注意するように。	グローバル化の影響下にある日本の地域社会を対象とし、社会調査を行う能力を身につける。	①社会調査とはどのようなものであるかを理解する。 ②実習の中で地域社会を調査する手法を身につける。 ③卒業研究に向け、単独で地域調査ができる能力を養う。	0.3	0.2	0.3	0.2

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160129	国際協力論実習	国際協力NGOや社会企業での調査や実習を通じて、フィールドワークの基礎を学ぶ。	(A) 知識・理解：国際協力を分野横断的に理解し、関連する基本知識を身につける。 (B) 思考・判断：社会の諸問題を実証的かつ合理的に考察できる。 (C) 技能・表現：実地調査の結果を分析・総合し、論理的な考察を加えて文章化できる。また口頭で発表し、生産的な議論ができる。必要な情報科学に習熟する。 (D) 関心・意欲・態度：世界各地の社会問題に関心を持ち、文化の相違を尊重して、社会の問題解決のために、実践的に行動できる。	実践を通じて、フィールドワークで重要な「ファクト収集（正確な情報収集）」「インテリジェンス（断片的な情報から本質を見抜く能力）」「ファシリテーション（創造的対話の技法）」の基礎を身につける。	0.1	0.3	0.3	0.3
K160153	ヨーロッパ思想構造論演習	ドイツ・ロマン主義についてゼミ形式で学びます。	国際学部生に求められる異文化理解力を身につけます。	発表、レポート技術を学び、卒業論文に対する心構えができるようになります。	0.3	0.1	0.3	0.3
K160162	日本語教育Ⅰ演習	この授業の目的は、この授業は講義で学んだことをふまえて、文献講読、教科書分析、カリキュラム案の作成を行う授業である。	日本語教育は国際社会や国内の社会状況と密接に関わっており、本授業は国際学養成の一翼を担うものである。	文献講読、教科書分析、カリキュラム案の作成を行い、日本語教育に関する専門知識を深めることにある。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160163	日本語教育方法論演習	専門書や文献の講読を通して「日本語教育方法論」で学んだ知識をさらに深め、第二言語習得理論をふまえた日本語教育の方法を考察する。合わせて、国内外の日本語教育の現状と課題についても取り上げる。	外国語としての日本語という視点から、自らの言語文化・言語行動をふり返るとともに、言語の問題を主体的かつ具体的に考える。	国内外で日本語教育を展開していく上での問題とその解決について、客観的かつ分析的に自ら考えることができるようになることを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160164	日本語教育Ⅰ実習	この授業の目的は、特に将来日本語教育に就く希望を持っている学生を対象に「日本語教育Ⅰ」やその他の日本語教育、日本語学、言語学関連の授業で学んだ知識をふまえて、	国際学部国際文化学科で日本語教育関連の分野に関わる専門科目である。	この授業では、日本語クラスの準備段階から授業計画、授業の実践までのプロセスを実践し、日本語教育の実際を体験的に学ぶとともに、日本語プログラムの作成者としての基本を学ぶことを目指す。	閉講			
K160165	日本語教育Ⅱ演習	主として海外の日本語の教育現場で実際に起こりうる問題への言語学的・教育的知見を適用した対応法を学びます。問題の本質への専門的見地からの接近法を学び、自分ならではの問題解決の楽しさ・達成感を知ることが期待されます。教師の指示によるディスカッションや小調査、および、模擬授業を含む教授活動のシミュレーションと分析などを行います。	留学生の受講希望者を積極的に受け入れてグループワーク、インタビュアーゲーム、模擬授業などの共同作業をすることによって、国際社会におけるコミュニケーション上の問題を誠実に受け止め、言語の壁を越えた相互理解に向けて工夫するセンスを磨きます。	受講者自身が持つさまざまな文化的・社会的・言語的リソースを活用しつつ、言語コミュニケーションに関する新しいアイデアを得るということを目指します。参加者ひとりひとりが、意識していなかった自己表現の特徴や自身の学習文化に気づいたり、自分のこだわりを明らかにして課題を見つけたりする、(そして、可能ならば卒業研究など将来の調査・研究につなげる)ということが、学習活動の中で起こることを期待します。	0.1	0.3	0.3	0.3
K160170	計算機ネットワーク概論実習	ネットワークの構築や整備を実際に経験しながら、必要最小限のネットワーク技術をマスターしていきます。また、デジカメやスキャナー等のハードウェアを接続し、Webページに必要なマルチメディアコンテンツを制作し、情報発信します。その上、各自が興味のあるテーマを選び、ネットワークについて深く考察してもらいます。	情報化社会の諸問題に特化した知識の学習とその理解、IT情報技術・技能を身につけることに関連する。	実習を通してネットワーク技術及びその活用能力を身に付けることを目的とします。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160250	国際経済論演習	国際経済や企業問題について文献・資料を購読することを通じて、問題意識を涵養する。	文献・資料の購読と批判的検討を通じてより深い専門的知識を獲得する。また討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読し、より深い理解を得る。	本演習では、グローバリゼーションの下で現れている様々な問題を各自の問題関心に応じて選択し、専門的な文献・資料の読解力・分析力を養う。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化するすることができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160310	環境と国際協力	今日、環境問題をめぐる国際協力には、国際条約の締結や非拘束方式的の協定締結、緩やかな政策対話、民間協力、資金/技術援助など、実に多様な形態があり、これらが複雑に混ざり合って環境国際協力スキームを形成しています。また、環境国際協力を担う行為主体(アクター)も、政府機関や国際機関、地域機構だけでなく、民間企業、科学者、NGOs、市民に至るまで、実に多様化してきています。授業では、多様化する環境をめぐる国際協力の現状を多面的に捕らえ、全体像を把握することを目的とします。	地球環境問題をめぐる国際協力の様相について、基礎知識を習得する。多様化する環境問題をめぐる国際協力の様相を、多面的に思考・判断する。講義内容をノートにまとめ、論点やポイントを把握し、問題を多面的に把握する思考力を養う。環境問題をめぐる国際協力に関する知識を意欲的に吸収し、多面的に問題を理解する思考力を養う。	多様化する環境をめぐる国際協力の現状を多面的に捕らえ、全体像を把握することを目的とします。	0.3	0.3	0.1	0.3
K160315	環境と国際協力演習	環境国際協力の問題を国際政治問題として捉え、これを学術的見地から検討することを目的とします。	学術論文の論議等を通じて、当該分野の問題を多面的・構造的に思考・判断する。学術論文の内容や論点をまとめ、口頭発表、議論する。またゼミ合宿にてDebateを行う。自発的学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する姿勢をもつ。	関連の学術書の論議を通じて当該分野の問題を多面的・構造的に思考・判断する。学術論文の内容や論点をまとめ口頭発表、議論する。また他大学とのゼミ合宿にて、Debateを行う。	0.3	0.2	0.2	0.3
K160320	国際機構論	なぜ、いかなる目的で人類は国際機構を創設したのか、という基本的な問題意識をもちつつ、歴史的・思想的観点を取り入れながら、過去から現在にいたる「国際機構現象」を学問的に理解する。	国際機構の歴史、構造、制度、機能理論に関する基本的な知識を身につけ、それらを使って国際機構現象を実証的且つ合理的に考察する力を養う。さらに同分野の専門書を読み、その内容について批判的に考察し、考察内容を正確な日本語で表現する能力を養成する。	・国際機構論についての基本的な知識を身につけ、主要な理論を理解する。 ・歴史的、政治的、法的な観点を組み合わせながら、国際機構の歴史と現象を考察する。 ・専門書を読み、その内容について批判的に考察し、考察内容を正確な日本語で表現する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K160355	途上国経済発展論演習	発展途上国(主にアフリカ)の貧困と豊かさ・経済発展・格差に関して、現状及び既存の理論的説明を理解した上で、各自が興味を持つテーマについて考察します。それぞれの問題意識に基づき、各自の興味のあるテーマについて掘り下げ研究を始めるとともに、論文や資料などの収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術などについて学びます。	①知識・理解 発展途上国の発展等に関連して、自ら設定したテーマに関する基本的知識・理解を深める。 ②思考・判断 発展途上国の発展等に関連して、自らテーマを設定し、論理的に思考できる力を養う。 ③技能・表現 文献・資料収集や引用の基本的な技術を習得するとともに、文章・口頭における表現能力を養う。 ④関心・意欲・態度：自ら設定したテーマについて理解を深めることによって、自発的な学習態度を養う。	テーマ設定、論文・資料収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術を身につけます。 1. 発展途上国の発展等に関連して、自ら設定したテーマに関する基本的知識・理解を深める。 2. 発展途上国の発展等に関連して、自らテーマを設定し、論理的に思考できる力を養う。 3. 文献・資料収集や引用の基本的な技術を修得するとともに、文章・口頭における表現能力を養う。 ・自ら設定したテーマについて理解を深めるとことにより、自発的な学習態度を養う。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160356	地球市民社会論演習	本授業の内容は、以下の通りです。 1 地球市民社会、特に国際協力NGOへの理解を深め、発表や討論の方法、論文・レポートの書き方、資料収集方法を学びます。 2 地球市民社会、国際NGO、国際協力、グローバル・ガバナンス、地球的諸課題全般への理解を深めます。 3 国際協力NGO、国際協力機関、地域おこしの現場などを訪問し、質問項目・調査報告の作成等フィールド・スタディの手法を学びます。過去には、足尾銅山、栃木県モノヅボ村、日本国際ボランティアセンター(JVC)、難民支援協会を訪問しました。	本授業は、専門教育科目の演習の授業として、地球市民社会の専門知識を得ることを目標とします。	本授業の到達目標は、地球市民社会に関する専門知識を学び、発表や討論の方法、論文・レポートの書き方、資料収集方法、フィールドスタディの基本を習得することを目標とします。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160358	国際学特殊講義Ⅱ演習	本演習は最近50年の商品とサービス、資本、人間、思想という4つの動向からラテンアメリカ地域を分析することにより、国際的な文脈におけるラテンアメリカの問題を考察します。	本演習はラテンアメリカの経済の情勢やについて関心がある学生を対象とします。	まず、この動的な流れを捉えるために、国際貿易と資本の流れに関する基本的なミクロ経済学、比較優位、金利と為替相場のメカニズム、賃金格差などの基本的な経済学理論を学習する予定です。	0.2	0.2	0.2	0.4
K160361	国際学英書講読	英文社説という無駄のない文章を正確に読み取る力をつけることで、国際社会や国際文化に関する諸現象を的確に把握する力と技能を習得する。	社会科学および人文科学の領域において、国際間の価値観や文化的摩擦を見据え、問題解決のための課題解決策を真剣に追求する意欲と分析の力を養成する。	英文社説で取り上げられる様々な国際社会・国際文化事象から、現代が直面する社会的・文化的な政策課題を読み解く力を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160500	日本の政治	今日の社会問題の多くは、政治と深い関わりを持ち、それらが私たちの生活にも大きな影響を与えている。そこで本講義では、日本の政治の仕組み(制度)、主体(アクター)、プロセスに注目しながら、実際に起こっている社会・政治問題についての理解を深めていく事を目的とする。ここでは出来る限り時事的な話題や問題を事例として取り上げる。	日本政治の制度と実態を理解するとともに、他国と比較し考察するための素養をつける。	本講義の到達目標は、「教科書に出てくる政治学」と「実際に起こっている政治」とをリンクさせる事によって、新聞やTVニュースで取り上げられたり、身近で起こっている社会・政治問題を自分たちの問題として理解し、考える事が出来るようにすることである。	0.4	0.2	0.1	0.3
K170000	外国語臨地演習(英語)	オーストラリアパース市のカーティン工科大学で3週間の英語研修を行う。滞在は市民の家庭であり、生活も英語により行うことで、英語を学ぶだけでなく、英語を使用することで、英語運用能力の向上を目指す。カーティン工科大学では、ELICOSで学ぶことで、様々な国の学生と交流することもできる。出発にあたっては3時間の事前指導を行い、帰国後1時間の事後指導も行われる。	英語を学びつつ使うことで、英語の効果的な学習を行う。またオーストラリアの社会、文化、自然についても学ぶ。	英語の運用能力を高めるとともに、オーストラリアの社会、文化、生活慣習、自然について学ぶ。	0.3	0.3	0.2	0.2
K170001	外国語臨地演習(中国語)	外国語の学習においては、その外国語が日常生活で使われている地域に行き、実際にその外国語を使って生活をしてみる事が、運用能力の向上にきわめて有効であることが知られています。本授業では、原則として中国語の基礎的文法及び会話などをマスターした学生を対象に、中国語が日常生活で使われている地域を3週間程度訪れ、中国語を専門的に教える教育機関において、言語・文化等に関する訓練を受けつつ、日常生活の中で中国語を使うことにより、実践的な運用能力の向上を目指すことにあります。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>→現地教育機関による講義や自身の調査等を通じて、中国及び華人社会の諸問題に関する知識を体得する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>→日本及び現地教育機関において教授される中国語と日常生活の中で使用される中国語との差異を通じて、中国及び華人社会の多様性やその背景についての理解を深める。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→現地における専門的な文献の取集、及び実地調査を行うための基礎的な能力を養成し、それによって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析することができるようにする。また、現地の人々とその内容について議論を行うことができるようにする。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p> <p>→現地の人々とふれあう中で、言語を使用する上でのコミュニケーション上のエチケットなどを考えつつ行動する習慣を身につけさせる。</p>	<p>1. 日常レベルの会話の運用能力を身につける。</p> <p>2. 中国語を用いた中国語の講義を受講することに慣れる。</p> <p>3. 中国語を用いて、現地を理解する習慣を身につける。</p> <p>4. 中国語を用いたプレゼンテーション能力を身につける。</p> <p>5. 伝統文化や現代社会、日本との関係等への理解を深める。</p> <p>6. 現地の人々とふれあう中で、言語を使用する上での倫理的な常識やコミュニケーション上のエチケットなどを考えつつ行動する習慣を身につけさせる。</p>	0.3	0.2	0.2	0.3
K199010	卒業研究(磯谷 玲)	卒業研究に向けた、研究・議論を行う。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門的知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門的知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	0.2	0.1	0.4	0.3
K199020	卒業研究(松村 史紀)				0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際社会科学 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199030	卒業研究 (今井 直)	(1) 卒論を完成させる上で必要な知識と理論を習得し、説得力のある論文とはどういうものか理解する。(2) 内容のある論文を書くために必要な展開力と持続力のある思考・判断を養う。(3) 読者にわかりやすい文章表現を養うとともに、実証的な資料をふまえた説得力のある論理を追求する。(4) 卒論を完成させたことが将来に向かっての自信となるような機会を提供する。	(1) 卒論を完成させる上で必要な知識と理論を習得し、説得力のある論文とはどういうものか理解する。(2) 内容のある論文を書くために必要な展開力と持続力のある思考・判断を養う。(3) 読者にわかりやすい文章表現を養うとともに、実証的な資料をふまえた説得力のある論理を追求する。(4) 卒論を完成させたことが将来に向かっての自信となるような機会を提供する。	(1) 卒論を完成させる上で必要な知識と理論を習得し、説得力のある論文とはどういうものか理解する。(2) 内容のある論文を書くために必要な展開力と持続力のある思考・判断を養う。(3) 読者にわかりやすい文章表現を養うとともに、実証的な資料をふまえた説得力のある論理を追求する。(4) 卒論を完成させたことが将来に向かっての自信となるような機会を提供する。	0.3	0.2	0.3	0.2
K199040	卒業研究 (内山 雅生)	各自の関心に基づき東アジアの特定地域の文献実地調査を研究する	東アジア社会の歴史的变化を文献および調査から研究する	各自の関心に基づき東アジアの特定地域の文献実地調査をする	0.2	0.2	0.3	0.3
K199070	卒業研究 (佐々木 史郎)	国際学部専門教育科目「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」に関連して各自が設定したテーマについて、先行研究の整理と一次データの収集・整理分析を前提に、オリジナルな研究を試みさせる。	卒業研究準備演習までの成果を具体的に発展させ、国際学部での修学の集大成を行う機会として位置づけられる。	1. 自らの問題意識を具体的な研究として構築していく過程を通して、先行研究や資料の収集と適切な取り扱い、論理的・実証的な展開等の基本的態度を養う。 2. 研究論文の文体・表現や章立て構成の基本を身につけさせる。	0.1	0.3	0.4	0.2
K199090	卒業研究 (高橋 若菜)	各自の関心に応じて環境と国際協力に関連する問題についての文献調査研究を立案実施します。	社会科学的研究方法に基づいて、当該分野の研究課題を論理的に思考・判断する。当該分野の研究課題を設定し、先行研究調査・現地調査等を行い、卒業論文にまとめ発表する。自発的学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する姿勢をもつ。	社会科学的研究方法に基づいて、環境と国際協力に関連する研究課題を設定し、先行研究調査・現地調査等を行い、卒業論文にまとめ発表する。自発的学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する。	0.2	0.3	0.2	0.3
K199100	卒業研究 (田巻 松雄)	受講生は卒業研究に向けた報告をし、指導教員と他の受講生は報告に対しコメントする。	国境を越えるグローバルな社会の諸問題に対する関心を深めるとともに、適切な文献・資料・データを収集し、ふさわしい方法論を駆使しながら、設定したテーマについて鋭く分析する力を養う。また、自身の人間観や社会観を問い直していく知識や感受性の習得を目指す。	先行研究を十分に整理し、論文のオリジナリティを明確にする。テーマに関する現実を丁寧に整理しながら、その現実の背景や意味を多面的かつ論理的に分析する論文を作成する。	0.2	0.2	0.3	0.3
K199110	卒業研究 (友松 篤信)	文献の検索と批判的検討を学び、卒業論文の構想を立てる。論文の表記法や注記、引用法を学ぶ。	(A) 知識・理解：自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的な知識・認識を有する。 (B) 思考・判断：地域の問題を実証的かつ合理的に考察できる。 (C) 技能・表現：文献読解や実地調査による知識や情報を分析・総合し、論理的な考察を加えて文章化できる。また口頭で発表し、生産的な議論を行う。必要な情報科学に習熟する。 (D) 関心・意欲・態度：世界各地の社会問題に広く関心を持ち、文化の相違を尊重して、問題解決のために、実践的に行動できる。	自ら選択した研究課題に対して、正しい文献引用や注記の方法を用いて、研究論文が執筆できる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K199130	卒業研究 (中村 祐司)	テーマを対象に社会的側面や文化的(価値観など)側面を視野に入れながら、論文作成を通じて、当該テーマの背景、それが波及するところの関係システムさらには解決策を追求する。	最も関心のある政策課題を掘り下げて、解決策を追求することを通じて、国際人としてのバランスの取れた思考力と洞察力を持った人材を目指す。	長文の論文を一文一文丁寧に積み上げる知的作業を経験することで、テーマそのもの、あるいはテーマから波及する国内・国外の社会的・文化的諸課題を把握する力を身につけると同時に、グローバル社会に柔軟に対応できる思考力を習得する。	0.2	0.3	0.2	0.3
K199140	卒業研究 (倪 永茂)	IT社会や情報ネットワークに関連した研究テーマを決めた上、先行研究等を整理し、独自の視点や問題解決法を追求する。	論文の説得力を向上し、卒論作成の技法や、論理的思考力を見つづけることを目指す。	IT社会に対する洞察を深め、問題解決に必要な思考力や表現力を習得し、卒論を作成する。	0.3	0.2	0.3	0.2
K199170	卒業研究 (マリー ケオマノータム)	自らの課題設定に即して、文献購読や社会調査を行い、発表・議論しつつ、卒業論文を作成する。	国際学部の必修科目であり、専門性を深め、主体的かつ批判的な分析力を養成しつつ、学術論文の作成を行う。資料や専門書の読解と実地調査、論文作成のための方法論を学び、論理的な思考力・表現力を身につけることが前提である。	社会学に関する知識を身につけ、現実の社会に対する理解を深める。社会学的想像力を培い、現実社会に対する基礎的な判断力を身につけつつ、学術論文の作成を行う。	0.1	0.3	0.3	0.3

国際学部・国際社会科学 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199180	卒業研究 (阪本 公美子)	自ら選択した専門的テーマについて、先行研究を整理した上で、指導のもと独自の調査・論理を展開し、卒業論文を作成すること。	①知識・理解：卒業研究のために自ら設定したテーマに関して、基本的文献を読み進め、先行研究を整理する。 ②思考・判断：卒業研究のために設定したテーマに関して、既存の研究を踏まえて問題設定し、論理的に考察する。 ③技能・表現：卒業論文のための文献・資料の収集や引用の技術を徹底し、文章の論理的構成能力を習得する。 ④関心・意欲・態度：自ら設定したテーマを自発的な研究態度のもと展開する。	1. 主体的に研究テーマを定め、問題を設定すること 2. 設定したテーマ・問題に関して、文献・資料・情報を理解すること 3. 設定したテーマ・問題について先行研究にあたり、整理すること 4. 問題設定に関して、適切な研究方法を選ぶこと 5. 資料に基づいて、論理的に卒業論文を作成すること 6. 引用・参考文献など論文の論文記述形式を活用すること	0.2	0.2	0.4	0.2
K199200	卒業研究 (松尾 昌樹)	卒業研究に念頭に置き、各自そのテーマに関して発表する。	(C) 専門的な文献の読解し、批判を発表と議論を通じて行うことで、専門知識を深める。(D) 自分たちとは異なる世界の社会問題に広く関心を持ち、社会の諸問題について考察し、論文にまとめる。	学士課程集大成として独自の研究を行い論文を執筆する。	0.1	0.1	0.3	0.5
K199210	卒業研究 (吉田 一彦)	言語科学全般、および、外国語教育学に関するトピックを選び、調査・研究・論文執筆を行います。	専門家として自身の得意分野で情報収集・分析・報告する技能を習得する技能を身につけます。 外国語によるコミュニケーション能力を高めます。	言語科学全般、および、外国語教育学に関して発見した事実と自己の主張・見解を他者と共有できる論文というかたちでしっかりと示します。	0.1	0.3	0.3	0.3
K199220	卒業研究 (スエヨシ アナ)	ラテンアメリカ経済、政治、社会、文化に関する様々な問題を検討します。	本演習はラテンアメリカの経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	卒業論文を作成する。	0.2	0.2	0.2	0.4
K199230	卒業研究 (清水 奈名子)	卒業論文の作成に関する方法論を学びながら、論文の主題、構成を自ら考え、他の学生と議論しながら、実際に執筆する作業を行う。	卒業研究の主題に関する先行研究の内容を踏まえつつ、自らの学問的関心に従って議論を構成し、論理的な文章を執筆し、その内容を口頭で発表する能力を養成する。	・先行研究を参照しながら、自らの学問的関心に従って卒業研究の議論を構成し、論理的な論文を執筆する。 ・卒業研究で考察した内容を口頭発表し、また他の学生の発表を聞いて、批判的かつ生産的な議論を行う。 ・自らの卒業研究に関わる国際問題についての学術的な情報を意欲的に収集し、自発的に学習する。	0.1	0.3	0.3	0.3
K199240	卒業研究 (重田 康博)	1 卒業論文を書くための指導を行う。 2 卒業論文の発表を行う。 3 フィールドスタディを行う。	本授業は、国際学部の最終学年の卒業研究の授業として、卒業論文の書くための文献収集、調査研究を実施する。	1 問題意識を持ち、問いを設定していく力を育てる (創造力) Creativity 2 卒業論文を書くための基本的な知識を身に付ける (知識) Knowledge 3 卒業論文の方法や技術を身につける (技術) Skill 4 社会の現場に行って実践する(実践) Practice	0.2	0.2	0.3	0.3
K199241	卒業研究 (古村 学)	日本の農山漁村などの地域社会を対象とした現地調査 (フィールド・ワーク) を行い、そのデータをもとに卒業研究を完成させる。	グローバル化の影響下にある日本の地域社会を対象とし、自力で社会調査をおこない、卒業研究を完成させる。	①自分で行った社会調査のデータをもとに卒業論文を執筆する。	0.2	0.3	0.2	0.3
K199250	卒業研究 (松村)				0.2	0.2	0.4	0.2
K199500	卒業研究準備演習 (田巻松雄)	卒業研究に向けた準備および討議	論文執筆に不可欠な問題意識について基礎的な知識を獲得するとともに、各自の問題意識をより深めていくことに関連する。優れた研究書を購読しながら、研究とはどうあるべきかについて理解を深めるとともに、論文の書き方に関する方法論を学ぶことに関連する。	優れた研究書を購読して知見を深めるとともに、研究の意義や重要性について理解を深める。論文執筆の方法論について基礎的な知識を身につける。各自の問題意識を深める。	0.2	0.2	0.3	0.3
K199501	卒業研究準備演習 (佐々木史郎)	国際学部専門教育科目の「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」に関連したテーマで卒業研究を行おうとする者を対象に、卒業研究に向けた課題設定、先行研究の整理、研究方法の検討、研究計画の立案と予察調査などを実施させる。	卒業研究に先行する準備過程の演習。	各自の関心に沿った研究課題について、先行研究の検索・整理、具体的な研究計画の立案、予備調査を実施し、速やかに卒業研究に移行できる段階に到達することを目標とする。	0.2	0.3	0.4	0.1
K199502	卒業研究準備演習 (マリーケオマノータム)	自らの課題設定に即して、文献購読や社会調査を行い、発表し、議論する。	国際学部の必修科目であり、卒業研究を行うための準備として、専門性を深め、主体的かつ批判的な分析力を養成することをめざしている。資料や専門書の読解と実地調査、論文作成のための方法論を学び、論理的な思考力・表現力を身につける。	社会学に関する基礎的な知識を身につけ、現実の社会に対する理解を深める。社会的想像力の素養を培い、現実社会に対する基礎的な判断力を身につける。	0.1	0.3	0.3	0.3

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199503	卒業研究準備演習 (高橋若菜)	環境と国際協力に関連する卒業論文を執筆していくための準備を行います。 具体的には、前半は、環境と国際協力に関連する文献や、論文執筆の方法論に関する文献を輪読します。後半は、受講生は、各自設定した卒業論文テーマに沿って調査研究を進め、授業で発表を行います。	社会科学的研究設計の方法について基礎的知識を習得する。社会科学的研究設計の方法を用いて、課題設定を行い、結論を導き出すための論理的思考力を養う。当該分野のミニ・プロジェクトを設定し、先行研究調査・現地調査を行い、その結果をまとめて発表する。自発的学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する姿勢をもつ。	社会科学的研究設計の方法について基礎的知識を習得するとともに、関連の先行研究を読解する。また研究設計の方法に基づいて課題設定を行い、ミニ・プロジェクトを設定し、先行研究調査・現地調査を行い、その結果をまとめて発表する。	0.2	0.3	0.2	0.3
K199506	卒業研究準備演習 (内山雅生)	卒業論文を書きあげるために、どのようなことをすべきか、テキストとして研究論文を素材に検討する。	必修科目としての卒業研究を完成できるようにする。	4年次に卒業論文を書き上げるためのスキルを習得する。	0.2	0.2	0.3	0.3
K199507	卒業研究準備演習 (中村祐司)	まちづくり提案に参加し、提案発表に至るまでのプロセスで、取材やヒヤリング方法、関連資料の読み方や分析方法などを学び、政策バランスのある思考力・洞察力を身につける。	国内・国外の社会科学・人文科学領域における政策テーマを各自が一つ取り上げ、現地調査を通じて、波及課題をも含めて把握し、当該政策のプロセスのみならずあるべき政策案についても発信する研究活動を実践する。	傍観者の立場からではなく、立案者の立場から取り上げた政策課題についての研究を深め、良質な政策提言を発信する能力を習得することで、国際社会人・国際文化人にならざるべき基礎的資質を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3
K199508	卒業研究準備演習 (磯谷玲)	各自の問題関心に応じた課題の選定、それに対応した研究・議論を通じて問題意識を発展させる。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門的知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門的知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	0.2	0.1	0.4	0.3
K199509	卒業研究準備演習(松村史紀)				0.2	0.3	0.3	0.2
K199510	卒業研究準備演習 (友松篤信)	国際開発・国際協力において、近代化以前の社会や文化の理解が不可欠になる。文献講読により、近代化以前の日本の社会・文化、暮らしを理解する。また、卒業論文の基本構想を立てる。	(A) 近代化以前の日本の社会と文化、および近代化によるそれらの変容を理解する。 (B) 近代化以前の日本の社会と文化を、実証的かつ想像力を交えて考察できる。 (C) 専門研究書の内容を正確に理解し、口頭で発表し、生産的な議論ができる。 (D) 開発問題との関係で、日本の社会と文化に広く関心を持ち、問題解決のために、実践的に行動できる。	1. 文献を正確に読み、要約する能力を身につける。 2. テキスト批評の方法を身につける。 3. 研究課題に対する個性的な見解やアプローチを獲得する。	0.3	0.3	0.3	0.1
K199513	卒業研究準備演習 (今井直)	各自の関心のある国際問題や人権問題について、各自あるいは教員が選んだ論文等について書評し合い、またその内容について討論します。	卒業研究のテーマと方法論を確定する上での必要な知識と能力を習得します。	論文の読み方・書き方を理解、習得し、良い論文とはどのようなかを判断する能力を養います。	0.3	0.2	0.3	0.2
K199514	卒業研究準備演習 (梶 永茂)	卒業研究のテーマに沿って、先行研究となる論文を多く読むことによって、卒業論文を書く力を身につけます。	情報化社会の諸問題に特化した知識の学習とその理解、IT情報技術・技能を身につけることに関連する。	1. 論文の読み方・書き方の習得 2. 卒業研究のテーマの確定	0.3	0.1	0.3	0.3
K199515	卒業研究準備演習 (阪本 公美子)	本授業では、「発展途上国」に関する基礎的知識及び考察力に基づいて、卒業研究を行なう準備として研究計画書を作成し、卒業論文の序章を執筆し、以下の能力を養うことを目標とします。	①知識・理解：卒業研究のために自ら設定したテーマに関して、基本的文献を読み進め、先行研究を理解する。 ②思考・判断：卒業研究のために設定したテーマに関して、既存の研究を踏まえて問題設定し、論理的に考察する。 ③技能・表現：卒業論文のための文献・資料の収集や引用の技術を徹底し、文章の論理的構成能力を磨く。 ④関心・意欲・態度：自ら設定したテーマから問題設定を導くことによって、自発的な研究態度を養う。	1. 主体的に研究テーマを定め、問題を設定すること 2. 設定したテーマ・問題に関して、文献・資料・情報を収集すること 3. 設定したテーマ・問題について先行研究にあたり、整理すること 4. 問題設定に関して、適切な研究方法を選び、計画を立てること 5. 資料に基づいて、論理的に卒業論文を構成すること 6. 引用・参考文献など論文の論文記述形式を身につけること	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199519	卒業研究準備演習 (松尾昌樹)	卒業論文を作成するための研究を行う。	(C) 専門的な文献の読解し、批判を発表と議論を通じて行うことで、専門知識を深める。(D) 自分たちとは異なる世界の社会問題に広く関心を持ち、社会の諸問題について考察し、論文にまとめる。	・異なる地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題について論文にまとめる。	0.1	0.1	0.4	0.4
K199520	卒業研究準備演習 (吉田一彦)	資料収集・分析法や論文執筆のための表現技術を学びます。また、研究開始に向けた専門基礎知識の確認をします。論理的な情報分析能力・考察能力・意見交換能力・表現能力を身につけるための活動をします。さらに、参考書購読による執筆法の基礎の確認、論文事例の検討、研究計画立案法の実践も行います。	研究指導を受けながら卒論を書く人のために、それを機会として専門家として生きるための情報収集・分析・発表・報告技能を獲得する機会を提供します。	卒業研究を行うための前準備として必要になる知識と技能の確実な習得を目指します。これには、A) 資料の収集・分析法や論文執筆のための文章表現法・表現技術など受講者に共通のもの、B) 各受講者の問題設定に応じた個別のものとなるが、本演習ではその両方を同じだけ重視します。	0.1	0.3	0.3	0.3
K199521	卒業研究準備演習 (スエヨシ アナ)	卒業論文を作成までに指導受ける。	本演習はラテンアメリカの経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	卒業論文の作成に向けてラテンアメリカ経済、政治、社会の問題を検討しながら、卒業論文の作成方法を学ぶ。	0.2	0.2	0.2	0.4
K199522	卒業研究準備演習 (重田康博)	1 地球市民社会、国際協力、途上国の現状、グローバル・ガバナンスの専門知識を深め、発表や討論の方法、論文・レポートの書き方、フィールド・スタディの方法等を学びます。 2 演習での発表（プレゼンテーション）や討論の方法を学びます。 3 卒業論文の書き方（問題の所在、構成、参考文献、図表引用など）を学びます。 4 社会人になるためのキャリア・アップやステップ・アップの方法を学びます。	国際学部国際社会学科の専門教育科目の卒業研究準備演習の授業として、地球市民社会の専門知識を得ること、卒業論文の書き方を指導することを目標とします。	1 問題意識を持ち、問いを設定していく力を育てる（創造力） Creativity 2 卒業論文を書くための基本的な知識を身に付ける（知識） Knowledge 3 卒業論文の方法や技術を身につける（技術） Skill 4 社会の現場に行って実践する（実践） Practice	0.2	0.2	0.3	0.3
K199525	卒業研究準備演習 (清水奈名子)	学術論文を執筆する意義と目的を確認しながら、卒業研究に必要な知識と方法を学ぶことで、各自が論文の主題を設定し、議論を構成する力を身につける。	卒業研究の主題に関する先行研究を正確に読解し、その内容について論理的にまとめて文章化し、さらに自ら考えた論点について生産的な議論を自発的に行う能力を養成する。さらに自ら卒業論文の議論構成を考え、文章化して発表する力を育てる。	・先行研究と自らの考察を区別し、比較しながら、法学的・政治学的な枠組みを使って思考、判断する。 ・先行研究を参照しながら、自らの卒業論文の主題を設定し、その内容をまとめて発表する。 ・自らの卒業研究に関わる国際問題についての学術的な情報を意欲的に収集し、自発的に学習する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K199526	卒業研究準備演習 (古村 学)	日本の農山漁村などの地域社会を対象とした現地調査（フィールド・ワーク）をもとにした卒業研究を計画している学生を対象に、卒業研究に向けた準備作業をおこなう。	グローバル化の影響下にある日本の地域社会を対象とし、自力で社会調査を行う。	①卒業研究とはどのようなものかを理解する。 ②卒業研究のテーマを確定する。 ③自分で行った社会調査のデータをもとに卒業論文を作成できる体制を作る。	0.3	0.2	0.3	0.2
K520010	言語学	言語学の基礎を学びます。	学科基礎科目として国際文化学科の選択必修科目に位置づけられ、同学科の学問体系の一部を構成しています。言語とコミュニケーションに関する科目群の基盤ともなっています。	言語学とは、言語とコミュニケーションの本質を科学的に解明する研究分野です。 本授業では、次の2つのことを目標に講義を行います。 (1) 主に英語と日本語を対象として、言語学とは何かを解説する。 (2) 実践的な外国語を学習するための理論的基盤を与える。	0.4	0.4	0.1	0.1
K520015	対照言語学	主として英語と日本語を対象にして、言語間の比較対照を行います。	言語とコミュニケーションに関する科目群のうち、比較対照する方法論を身につけることに力点を置きます。	対照言語学とは、系統関係のない2つ（以上）の言語を比較し、その相違点と共通点を明らかにして、言語学習や言語普遍性の解明に役立つとする研究分野のことです。 本授業では、主に日本語と英語を研究対象として選び、その相違点と共通点を明らかにし、英語学習や言語普遍性への寄与も試みます。	0.4	0.4	0.1	0.1

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K520028	比較文化論	Using the diversity of the class as a resource, this class will explore various topics such as gender, race, stereotypes, environment, conflict etc. To see how our idea of " culture and identity are constructed and how it is maintained in the mass media today. Themes will be introduced and developed using class handouts but students are expected to make weekly contributions based on their own research and experiences.	The focus of this course is to develop critical perspectives on cultural differences and similarities. By using a model for cultural analysis and descriptions, learners will explore beliefs, values and commonly held stereotypes in order to form a complete, independent and personal understanding of various cultures.	This comparative culture course utilizes various disciplines (e.g. anthropology, history, literature, etc.) and various methods, both qualitative and quantitative, to analyze cultural phenomena for the purpose of better understanding our own and other cultures.	0.2	0.3	0.3	0.2
K520036	芸術文化論	芸術と文化の基本的構図を理解し、美学と神話的思考の関係について学ぶ。	異文化の相互理解の基本的媒介となる美や芸術の基本的構造について理解する。	芸術と文化の基本的構図を理解すること	非開講			
K520044	西洋現代思想	人間はこの世界とどのように関わっているのか、そして自らをどのようにとらえるべきなのか。この哲学的な問いについて、西洋現代思想の系譜に沿って考えていきます。思想家たちの残した言葉に実際に触れながら、混迷の度合いを深める現在の世界を生き抜くためのヒントを汲み取ります。全講義を通して、「哲学」を欠いたいかなる知識も、いずれは滅びる運命にあることを学びます。	(A) 西洋現代思想の主な潮流とその歴史的背景について、基礎知識を身につける。(B) 常識や通念を疑う西洋現代思想の思考法を学びながら、自文化に関する考察・反省に応用する。(C) 毎回の提出物を通して、西洋哲学のポイント・論点を把握し、適切に表現する力を養う。(D) 西洋現代思想について、自文化への応用を通して理解する態度を養う。	西洋現代思想の主な潮流とその歴史的背景について基礎知識を身に付けるとともに、常識や通念を疑うその思考法を学びながら、自文化に関する考察・反省に応用することを目指します。毎回の提出物を通して、ポイント・論点を把握し、適切に表現する力を習得するとともに、西洋哲学の思考法を、自文化への応用を通して理解する態度を養います。	0.5	0.3	0.2	0.0
K530015	日本文化論（歳時編）	日本の気候風土に根ざした、季節に関わる伝統的な生活行事について、文献資料と図像資料を通して学ぶ。	日本文化を発信する基礎力を身につけることが期待される。	日本の歳時、季節感について学び、日常生活で意識する。講義の要点を把握し、歳時、季節感を通して日本文化の特質について考察し、的確にまとめる。	0.0	0.0	1.0	0.0
K530023	日本思想史	近代の学校教育は、西洋の知識や技術を取り入れる目的で作られたもので、日本の思想・文化についての説明は、実際とは大きく異なる。授業では民俗学やインドからチベットに伝えられた仏教の伝統が手がかりに、明治以前の伝統的な宗教のあり方について具体的イメージで掴み、それとの関係で、文化の諸ジャンル（文芸・芸能）を捉えなおす。	宗教を核に文化の諸ジャンルの相互関係を理解することによって、国際社会で必要とされる、自己の文化を説明する能力を養う。	伝統宗教と文化の諸ジャンルの関係、伝統と現在の私たちの関係を知らることによって、外国人に自国の文化について説明する能力を養う。	0.2	0.2	0.2	0.4
K530031	日本文化論（文学編）	一つのテーマにそって様々な作品を読み、それぞれの特質について考察を加え、作品を評論する。	文学作品を鑑賞し、評論する基礎力を身につけることが期待される。	文学作品を読み解く視点を学び、文学作品を通して日本文化の特質について考察する。講義の要点を把握し、考察を的確にまとめる。	0.0	0.0	1.0	0.0
K530040	日本武道論	日本の武道、とりわけその身体観を文化論の範疇で論ずる。武術は身体運動として現象するため、体育・スポーツ領域の運動学で扱われもする。だが、日本の武術に特有な思想や言語、型の伝承と創造に注目すれば、身体は文化論や言語論、実践論の領域でとらえられる。日本剣道を中心に、現象学的手法による武道的な身体論の視座を講義し、受講生の文化理解に資す。	日本の武道を文化論の範疇でとらえ、その身体観を言語論と実践論から展開し、社会的な問題や自己の問題を解決できるようにする。	本授業で学んだこと、考えたこと、感じたことをレポートで、実践的に、しかも論理的に表現できるようにする。	0.1	0.3	0.3	0.3
K530059	韓国文化論	韓流ブームもあって、ここ数年韓国は日本にとってほかのどの国よりも身近な存在となりましたが、現実には中身の伴わない、実に薄っぺらなものです。その原因は韓国文化の本質が全く伝わっていないからです。本授業では、メディアによく取り上げられる食文化や美容整形、スポーツといったキーワードを取り上げ、それぞれの文化事象に込められている現代韓国社会の動向とその背後に潜んでいる韓国文化の源流に迫ります。	ポストモダン化が進む韓国社会を理解する上で基本となる知識の獲得を通じて韓国社会が長年育んできた伝統文化への理解を深めます。	韓国社会が長年育んできた伝統文化への理解を深めると同時に、韓国文化の特質を日本や中国、欧米など他文化との比較を通して理解する力を育成します。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530066	中国文化論	<p>中国及び東アジアにおいて、「文化」とは何であったのか。また、「中国」とは、そして「アジア」「東洋」とは、いったいいかなる存在なのか。本講義では、このことを「東アジアの中の日本」という視点から学生に考究させることをその目的とします。基本的な文献資料に基づき、どのような異文化接触の過程で中国文化が形成されてきたのかについて、歴史学の立場より察を加えます。また、中国文化に対する興味を喚起するため、台湾でのフィールドワークの成果に基づく具体的な文化事例を示し、「周辺」という視点から中国における伝統社会や文化を照射して、その多様性や背景を考察します。</p>	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。 →中国社会の多様性とその背景に関する理解を歴史学を軸とした文化論の立場から深める。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 →中国社会の歴史の変遷を原典理解を通じて実証的、合理的に理解する方法を身につける。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 →現地における専門的な文献の収集、及び実地調査を行うために必要な基礎的な情報や能力を紹介することにより、知識や情報を主体的に収集することの重要性を身につけさせる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。 →日本における中国社会への表層的な理解と学術的な分析との差異を示しつつ、今後の日中関係の問題点を考えるための基礎的能力を養成する。</p>	<p>1. 「中国」とは何か、ということを考える基本的な視角を身につける。</p> <p>2. 日本が中国、アジアをいかなる存在と認識してきたか、その歴史の変遷について理解する。</p> <p>3. 中国における「文化」とは何かということを考えるための基本的な視角を身につけさせる。</p> <p>4. 社会と文化、政治と文化の関連性についての理解を深める。</p> <p>5. 中国における伝統文化の形成について、歴史的な視点から理解する。</p>	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530067	アジア近現代思想論	近代の日本は「アジア」をいかに認識し、いかに交わり、いかに構築しようとしたのか。アジアという空間をめぐる思想史を「中国」を中心にすえて考えることをその目的とする。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>→「中国文化論」を履修することにより、歴史学的な手法により中国社会の多様性とその背景への理解を深めた学生を対象に、近代日本において対中国認識がどのように変容していったのかという点を思想史という枠組みから理解させる。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>→近代日本における対中国社会認識の変容を明治から戦前までに知識人によって記された文献を直接読むことによって、原典を通じた実証的手法を身につけさせる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→現地における専門的な文献の収集、及び実地調査を行うために必要な基礎的な情報や能力を紹介することにより、知識や情報を主体的に収集し、報告することの重要性を身につけさせるとともに、文献を輪読し、報告することによって、批判的に分析する能力を高めさせる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p> <p>→日本における中国社会への表層的な理解と学術的な分析との差異を示しつつ、今後の日中関係の問題点を考えるための基礎的な能力を養成する。</p>	<p>1. 近代日本において、アジア、中国がいかなる存在と認識されてきたか、その歴史の変遷について理解する。</p> <p>2. 日本人の中国認識に関する主要文献を認識し、その基本的内容について理解する。</p> <p>3. 戦後の日本における中国認識と戦前のそれとの連続性と非連続性について考える基礎的な能力を身につける。</p>	0.3	0.3	0.2	0.2
K530077	ヨーロッパの歴史と文化	13世紀以降のヨーロッパ文明の特質を、他文明との比較を通して説明する。	ヨーロッパ文明がなぜ最終的に世界史で勝利したかを理解する。	・世界史のなかのヨーロッパ文明の基礎的知識・特徴を理解する。	0.4	0.2	0.2	0.2
K530085	キリスト教文化論	一口にキリスト教といっても、その内実は一様ではない。「普遍的な」を意味するカトリックでさえ、理念としてまた組織としては一つであっても、どのレベルで考察するかによってみえてくるものが異なる。本授業では、中世以降のカトリック世界を対象に、その多様性・多層性を確認する。	異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察すること。	「キリスト教」の相対化。	0.2	0.6	0.1	0.1
K530112	地誌学概論A	地誌学の輪郭を講義する。地誌学の対象たる地球地域の見方、とらえ方、調べ方を平易に説明する。したがって、その内容は世界地誌や外国地誌、日本地誌、地方誌などではなくて地理学的見地に立つ地域論である。	中学校社会、高校地歴の免許取得聴講科目。地誌学の入門編としての意義をもつ。	・地球地域を見る確かな観察眼をもつようになる。 ・グローバルな意味での地域多様性概念を修得する。	0.4	0.4	0.1	0.1
K530113	地誌学概論B	地誌学の基本的な視点と地誌の構成を概観した上で、日本の地方誌および各国地誌を動態地誌的な方法により学ぶ。	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目。世界および日本の諸地域に関する地誌学習を指導するための基礎的な知識・技能を育成する。	・地誌の構成と動態地誌・動態地誌の学習法についての理解を深める。 ・地誌学習をつうじた地域的特色の追究方法を体験的に修得する。	0.3	0.3	0.0	0.4
K530120	アジア比較地誌論	アジア地誌の基礎的事項を確認しながら、アジアの地域的多様性とその地理的背景の意義に關し、いくつかの指標の地域比較を通して、具体的に理解させる。	高校地理の履修者が少ないことを前提に、アジア地誌の基礎的理解を養い、アジアの個別地域に関する問題意識の喚起と学習の深化をはかるための準備科目として位置づける。また、高校地理歴史及び中学校社会の教員免許取得のための科目群の1つとして開講する。	アジアにおける地理的諸指標の分布や地域差に着目して各地域の特性を理解するとともに、その結果をアジア全体、世界全体の中に位置づけて把握する視点を養うことを目的とする。また、自らの理解の深化や課題の抽出に向けて、統計データ・地図・景観写真等の資料を活用する基礎的な技能を養う。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530147	イギリス文化論	日本人になじみの深い国でありながら、その実情の知られていないイギリスの文化について、実態を明らかにするとともに、イギリス人とのコミュニケーションが可能となるように、イギリス文化を英語により論ずる。	個別文化の一つとしてのイギリス文化を学ぶと同時に、イギリスとの交流や世界全体のイギリスの文化の位置づけについて理解し、文化の多様性について理解を深め、また英語の背景文化についての知識を得る。	イギリスとその文化について知識を獲得することで、イギリス人と豊かな交流が行える基礎的能力の向上を図る。	0.4	0.3	0.2	0.1
K530155	イギリス文学史	古代、中世から現代にわたるイギリス文学史を概観します。	各学生の専攻に応じて、教養として、または専門の研究に必要な基礎知識として役立ててください。	イギリス文学の生成、発展、消長をイギリスの文化、歴史、社会的背景のなかに位置づけ、理解し、把握した上で、なおそれらを味わう素養を養います。	0.5	0.2	0.2	0.1
K530163	アメリカ文化論	米国の文化や歴史を多角的な観点から概観する。	米国について学ぶことで、異文化への理解力や分析力を身につける。	米国の歴史や文化について知識と理解力を身につける。	0.6	0.2	0.0	0.2
K530171	アメリカ文学史	米国文学の歴史を概観する。	文学を通して異なる文化への理解力と分析力を深めることに貢献する。	米国文学についての基礎知識を習得し、幅広い観点から考察する姿勢を持つ。	0.6	0.2	0.0	0.2
K530181	ドイツ文化論A	狭義のドイツ文化ではなく、現代社会にいきる幅広い意味での文化の実態を探る。ステレオタイプのドイツ像ではなく、地理、社会構造、文化事象等、ドイツの実情を具体的に、現実的に把握することにより、自国（日本）の状況と比較する。	日本人にとって遠く、直接的利害関係の少ないドイツの実態を知ることにより、自分たちの置かれている状況をより客観的に眺められるようにする。他文化と自文化を共に尊重する態度を身につける。	現代ドイツの姿をいろいろなテーマのもとで眺め、さらにそれを受講者の母国と比較することにより、己の置かれている現状を認識することのできる文化比較能力の向上を図る。	0.5	0.2	0.1	0.2
K530182	ドイツ文化論B	「ドイツ文化論A」と同様、狭義のドイツ文化ではなく、現代社会にいきる幅広い意味での文化の実態を探る。ここでは環境問題や外国人問題、青少年の問題等、特定のテーマを設定し、それについて幾分深く掘り下げた形でアプローチする。それを自国の状況と比較することは「ドイツ文化論A」と同様である。	日本人にとって遠く、直接的利害関係の少ないドイツの実態を知ることにより、自分たちの置かれている状況をより客観的に眺められるようにする。他文化と自文化を共に尊重する態度を身につける。	現代ドイツの姿をいろいろなテーマのもとで眺め、さらにそれを受講者の母国と比較することにより、己の置かれている現状を認識することのできる文化比較能力の向上を図る。	0.5	0.2	0.1	0.2
K530198	フランス文化論	この授業では、フランス語文化圏のエッセンスを解説します。フランス語文化圏諸国は、どのような歴史のなかで、どのような文化を培ってきたのかを、複数の視点から学習します。半期を通して、受講者のなかの「フランス」のイメージは大きく変化することでしょう。	(A) フランス語文化圏の文化とその地理的・歴史的背景について、基礎知識を身につける。(B) フランス語文化圏の価値観とそれに基づく思考法を学びながら、自文化に関する考察に応用する。(C) 毎回の提出物を通して、フランス語文化圏のポイント・論点を把握し、適切に表現する力を養う。(D) フランス語文化圏の価値観について、自文化への応用を通して理解する態度を養う。	フランス語文化圏の文化とその地理的・歴史的背景について基礎知識を身につけ、フランス語文化圏の価値観とそれに基づく思考法を学びながら、自文化に関する考察に応用できるようにします。毎回の提出物を通して、ポイント・論点を把握し、適切に表現する力を養うとともに、異文化圏の価値観について、自文化への応用を通して理解する態度を養います。	0.5	0.3	0.2	0.0
K530200	ドイツ学－文芸と社会	ドイツ文学の代表的作品を読み、全員参加で内容について理解します。	国際学部生に求められる異文化理解力を身につけます。	学問としての文学とは何か、ということを理解します。	0.3	0.1	0.3	0.3
K530210	東西比較文化論	Using the diversity of the class as a resource, this class will explore various topics such as gender, race, stereotypes, environment, conflict etc. To see how our idea of "East" and "West" is constructed and how it is maintained in the mass media today. Themes will be introduced and developed using the text book but students are expected to make weekly contributions based on their own research and experiences.	The focus of this course is to develop critical perspectives on cultural differences and similarities by analyzing concepts of East and West. By examining examples of religion, philosophy, history, geography and communication, learners will explore beliefs, values and commonly held stereotypes in order to form a complete, independent and personal understanding of various cultures.	This comparative culture course utilizes various disciplines (e.g. anthropology, history, literature, etc.) and various methods, both qualitative and quantitative, to analyze cultural phenomena for the purpose of better understanding our own and other cultures.	0.2	0.3	0.3	0.2
K530228	日韓文化交流史	夏目漱石や森鴎外、芥川龍之介など近代日本を代表する文学者が韓国朝鮮について書いた旅行記や小説、詩、短歌を取り上げ、近代日本文学に描かれた韓国朝鮮像を考察します。	文学作品の分析を通して、他者としての韓国表象とその裏返しである日本の自画像を映し出すことに関連する。	日本人の韓国人に対する伝統的かつ通俗的見方に対して批判的精神を養います。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際社会科学部 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530260	日欧比較文学論	本講義では、シェイクスピア戯曲のいくつかを取り上げて、それら原作がたどったその歴史的展開とヴァリエーションのありようを、実作品に即して見てゆきます。それによって浮かび上がってくる、国や時代による文化背景の違い、文学・芸術メディアのもつそれぞれの特質の違い、製作者の個性の相違などに注目しつつ、日欧を中心に比較文学的考察を加えたいと思います。	各学生の専攻に応じて、教養として、または専門の研究に必要な基礎知識として役立ててください。	ひとつの国、ひとつの時代に生まれ、世界的な古典ともなった文学作品の影響、受容そしてその再生産を通して、文学の伝統と変容とについて思いをいたすきっかけとしたいと思います。	0.5	0.2	0.2	0.1
K530287	比較児童文学論	「児童文学」とは何かについて、まずは自身の意識を自覚するところから出発し、近代以降のこのジャンルの生成・発展、そして転換を歴史的に概観するとともに、いくつかの作品を具体的に読みすすめる中から、課題と可能性を追究していきます。	分野的に特化した文化領域についての進化した知識・認識を有し、異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感性豊かな考察・評価を行う力を身につける、というカリキュラムの目標に、資するものとする。	「児童文学」ジャンルについて基礎知識を得るとともに、このジャンルの成立と変遷の過程を歴史の文脈におきながらその特質を理解することをねらいとしています。また、個別の作品に接することで文学表現の理解力および鑑賞力を養い、子どもという読者対象への関心を深め、文学を社会と関わらせて捉える態度を身につけます。	0.2	0.3	0.3	0.2
K530295	西洋史概説	大航海時代以来のヨーロッパの海外進出が非ヨーロッパ世界に与えたインパクトを検証すること。世界交易から始まる経済的世界の一体化がヨーロッパ社会にどのような社会変動を生みだしたかを革命のヨーロッパに焦点を絞って見ていく。産業革命以降、ヨーロッパ諸国間での競争が何故植民地支配や世界大戦に導いていったのかを考察していく。	大航海時代以来のヨーロッパの海外進出が非ヨーロッパ世界に与えたインパクトについて歴史的・地理的・理念的観点から総合的に理解し、基本的な知識を身につけた上で、異なる時代や地域の文化の様相に対し、比較考察的で、相対的な視点をもちつつ、科学的、実証的な考察、評価を行うことができる能力を養成する。	本講義の到達目標は、15世紀以降の西ヨーロッパを中心に開始される世界の資本主義の一体化の動きを歴史的に検証していく。世界システムの形成の歴史的把握を前提として、現代の様々な資本主義的世界の問題について、深く理解することを目標としている。	0.2	0.5	0.1	0.2
K530309	日本史概説	日本の歴史に関する基礎的な知識の充実をはかり、日本文化についての理解をふかめることを目的とします。	国際社会や国際文化をまなぶための前提として、いまいちど日本社会や日本文化の歴史的特質を自覚的にみなおす基礎科目に位置づけられます。教育職員免許状を取得希望の場合、必修科目に指定されることがあります。	日本の歴史のあゆみや、日本固有の文化の形成・変遷・特色などをあらためて認識することによって、海外の社会や文化と比較検討する際の礎をきざすことを目標とします。	0.4	0.4	0.1	0.1
K530325	考古学概説	考古学の研究方法、考え方、歴史などを通して、人類進化の歴史、とりわけ日本列島の人類史を説明します。	(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。→異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。→異なる時代・地域の社会の諸問題を比較する上での基礎となる考古学を理解させ、その上で比較する力を養う。(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。→人類史の多様性を理解させ、かつ文化の相違の淵源までを考えさせ、実践に活かせるように指導する。	本講義の到達目標は、日本列島に登場した人類の歴史を理解できることを目標にしています。そのため、考古資料の見方、扱い方を理解し、その資料を活用して、どのように歴史が描けるのか、を考え、理解することが目標です。	0.4	0.3	0.0	0.3
K530333	東洋史概説	中国近代史を、中国社会における資本主義の成立と展開という視点から見直してみます。	国際理解の一つとして、ヨーロッパ近代社会とは別の展開をしたアジアの資本主義を学び、国際教養を深めます。	「改革開放」の名のもとに資本主義経済を推し進める現代中国社会の特質を理解します。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530337	哲学概論	西洋哲学史を概観した上で、とりわけ近代哲学者たちの議論を紹介しながら、主に次の二つの問いに迫る。第一に、哲学において「考える」ということはどのようなことかを明らかにすること、第二に、「自由と責任」という概念に軸に、「いかに生きるべきか」という、古くかつ新しい哲学的問いを探索することである。	常にすでに正解が用意されているわけではない問題について考える力を身につけることが目指される。それによって、国内外の社会問題について、既存の価値観、倫理観等にとらわれない、国際的・学際的な探求心を養う。	・西洋哲学史に関する基礎知識、および、哲学的に「考える力」を身につける。 ・社会生活において求められる「考える力」とは何か、を考えることができるようになる。 ・現代社会におけるさまざまな倫理問題を認識することができるようになる。	0.1	0.1	0.4	0.4

国際学部・国際社会科学 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530368	比較思想論	ヨーロッパ近代における重要な道徳及び法哲学の源泉である功利主義の思想をそれと常に対比されるカント哲学と比較しながら学ぶ。	本講義は国際学部の専門科目として、西洋の倫理思想、社会思想について知識を深めることを目指す。	義務論の倫理学と功利主義の倫理学についてその概要を知る。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530384	現代芸術論	現代芸術を理解する上で必要な理論的枠組みについて説明するとともに、現代芸術が提起する諸問題について考えていきます。作品がどのような文脈から生まれ、どのような意図が込められているのかを探っていきます。	現代芸術は、現代社会が抱える様々な問題を反映している場合が多々あります。国境を越えて人々の心に訴える力をもつ現代芸術への理解を深めることは、国際的で幅広い視点を養う上で大切です。	現代芸術に触れたときに、どのような背景からそうした作品が生まれたかを理解し、そのうえで自らの視点ももてるようになること、また現代芸術が次々に提起する問題に対し、意見が述べられるようにすることを目標とします。	0.3	0.3	0.1	0.3
K530406	西洋美学	西洋美学の基本的特質と20世紀の美学的傾向を理解する。	西洋美学の基本的特質と20世紀の美学的傾向を学ぶことをとおして異文化の相互理解の基本的媒介を理解する。	西洋美学の基本的特質と20世紀の美学的傾向を理解する。	閉講			
K530410	芸術の思想	芸術の思想について事例をあげながら紹介する。それをとおして芸術独自の考え方を理解する。	芸術の思想について事例を学び、芸術独自の考え方を理解することをとおして異文化の相互理解の基本的媒介を身につける。	芸術の思想について事例をとおして芸術独自の考え方を理解する。	閉講			
K530430	表象文化論	この授業では、「環境」あるいは「エコ」といったキーワードに括られる、様々な映像作品（主にドキュメンタリー作品）、及び新聞・雑誌記事や文学作品などのテキストを見比べる中で、「環境問題」という事象について、現在いかに多様な「表象」の形態が存在し、それらが具体的にいかなる政治的意図や思想体系を背景として生み出され、また制作者（もしくは消費者）のどのような意図（あるいは欲求）を表現しているのかといった点を、実際の作品を分析する中で考えていきます。		「表象文化論」とは、日本では1980年代半ば頃から本格的に研究されるようになった、比較的新しい学問分野です。より具体的には、文学や芸術作品、映像等を含む多様なジャンルにわたる文化的表現現象を、それぞれ孤立した静的対象として扱うのではなく、むしろ生産、流通、消費に至るまでの多様な関係性の中で生み出された、思想的・政治的意図の一表現形態、すなわち「表象」（英語ではrepresentationと書きます）であると見なし、その生成から消費に至るまでの具体的プロセスの解明や、背後にあるイデオロギーの存在・影響を明らかにしようとするものです。こうした前提からこの授業では、特に「環境問題」にまつわる様々な「表象」の分析を通じて、表象文化論とは何か、その目的や意義とは何なのかといった、表象文化論の根幹をなす基礎的概念についても体感的に理解することを目指しています。	0.2	0.3	0.3	0.2
K530449	身体表現論	コミュニケーションの手段として非言語メッセージの役割は大きいものがありますが、それがもつ意味は世界共通ではありません。本講義では、身体表現を非言語メッセージの視点からとらえ、個々の非言語メッセージの形態、それが運ぶ意味を例示するとともにそれがどのようにして獲得されたのかを探ります。これらをおして、自文化、異文化について深く学んでいきます。	本講義は、国際文化学科専門教育科目の選択科目であり、その目的は、日常生活における、ことばにならざることば（ノンバーバル）によるコミュニケーションの実際を考察するとともに、それを基にした自文化、異文化についての理解を深めることにあります。	本講義では、コミュニケーションにおける非言語メッセージの役割を理解するとともに、異文化によりそれらが異なる形態やメッセージをもつことやそうした違いを生じさせている背景について認識することを到達目標とします。	0.2	0.4	0.2	0.2
K530459	英語学特殊講義A	意味の研究には色々あるが、人間の概念構造を対象とし、中でも単語の意味特性がどのように統語構造（いわゆる文法）に反映されるかを問う語彙意味論の研究を概観する。	言語普遍的な意味概念と言語固有の統語構造の関係を対象とする研究を概観することで、英語教育に必要な人間の言語能力に関する洞察を養う。	意味論研究の中で、統語構造との関係を重視するJackendoffの語彙意味論の基本概念を理解し、統語的規則性とは違った様々な意味的規則性に触れ、言語能力の理解を深めることを目標とする。	0.0	0.0	0.8	0.2
K530460	英語学特殊講義B	生成文法の中での意味論の位置づけを踏まえ、意味役割理論や場所理論などの基本概念を紹介し、それらと統語構造（いわゆる文法）との関係を概観する。	言語普遍的な意味概念と言語固有の統語構造の関係を対象とする研究を概観することで、英語教育に必要な人間の言語能力に関する洞察を養う。	意味論研究の中で、意味役割理論についての考察と、それに基づく英語の構文：結果構文、二重目的語構文、中間構文に関する一つの分析を概観することで、英語構文と意味の関係に關しての洞察を養う。	0.0	0.0	0.8	0.2
K530465	言語と音声	英語の音声の構造を分節音とプロソディの両面から学ぶ。	言語は人間の重要な文化遺産であり、その理解は文化理解と密接に関連している。	英語の音声構造を学問的に理解し、発音記号を活用できるようになる。	0.2	0.3	0.2	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530473	言語と認知科学	言語を認知科学の対象として研究する際、どのような問いが立てられ、それらの問いを解くためにどのような言語現象が観察され、どのようにしてどのような答えが出されるかを講述する。これらのことを理解するために、認知科学の観点からの言語研究の主要な問題をいくつか取り上げ、それらの問題に関する重要な研究事例を紹介、検討しながら、「心の科学」としての言語研究とはどのようなものかを示したい。		言語には認識、注意、記憶、推論などの認知（心の働き）の持つ性質が反映されているという観点からのアプローチが文法現象や意味に対してどのような記述や説明が可能になるかを理解することをめざす。同時に、そのような観点からの言語分析の方法についても理解を深めることを目標とする。	0.1	0.3	0.3	0.3
K530490	日本語論	私たちは、ことばを自由に用いできさまざまな言語活動をおこなっているが、なぜその語を用いるのか、どうしてその順序で表現するのか、といったような観察をしてみると、ことばは、ある一定のきまりに基づいて用いられていることがわかります。この授業では、日本語の文法的側面に焦点をあて、こういったことばの運用における法則性について考えます。	世界の諸言語のなかの一言語として日本語をとらえなおし、その独自性と普遍性を考える。	・現代日本語を諸言語のなかで相対的にとらえ、その独自性と普遍性を考える。 ・日本語の語彙・文法についての基礎的知識を身につけ、分析的に考える方法を学ぶ	0.3	0.3	0.2	0.2
K530503	日本語史	この授業では、音韻・語彙・文法の諸側面に焦点をあて、古代語と現代語との対照をとおして日本語の変化の様相を諸側面からとらえます。	現在の姿にいたるまでの日本語の変化の過程と、変化をひきおこしてきた背景について学ぶ。	・資料をよみ、理解する力を養う。 ・日本語の変化をひきおこしてきた背景について理解し、考える力を養う。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530520	国際コミュニケーション論	国際コミュニケーションで意思を通じるためには、まず、我々が日本語で行なっているコミュニケーションとはどういう営みであるかを自覚しなければなりません。その上で、「国際」コミュニケーションにはどのような特殊事情が加わるのかを知る必要があります。これらの二段階を通じて、成功する国際コミュニケーションの条件を考えます。	国際文化学科が掲げている「様々な文化の様相及び異なる文化間の交流について理解を深め、国際社会における相互理解に寄与する」という目的のためには、円滑に国際コミュニケーションが行えるということが不可欠です。この講義は、多くの日本人が国際コミュニケーションに対して持っている苦手意識の克服を目指します。	何かを教えてもらう（教えてあげる）、何かを売る（買う）、友人になる（絶交する）……外国人との交渉の必要性が生じた際に、スムーズにこちらの意向を相手に伝え、また、相手の気持を過不足なく理解できるための、重要なポイントはどこにあるのかを理解し、自分で良好な国際コミュニケーションが行えるための基礎的な力を養います。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530538	民族誌学	この授業では構造主義、形式・実体主義経済人類学、マルクス主義人類学、世界システム論、オリエンタリズム批判などの人類学書理論に見られる贈与と商品の対比を概観することで、ローカルとグローバルに同時に接近する人類学の可能性を検討します。	贈与交換と商品交換の区別の通文化的違いを理解し、グローバル化した資本主義が伝統文化に与える問題を考察する。	構造主義、形式・実体主義経済人類学、マルクス主義人類学、世界システム論、オリエンタリズム批判などの人類学諸理論に見られる贈与と商品のさまざまな対比の在り方の理解	0.3	0.3	0.1	0.3
K530554	ジェンダー論	ジェンダーというのは非常に流行している言葉です。この授業では、この言葉をどのように使うべきか、どのように理解するべきかという二つの観点を中心に考えます。	ジェンダーの問題を分野横断的に理解し、相対的視点をもちつつ考察することのできるクリティカル・シンキングを支援します。	1960年代後半から性差別は大きな社会問題として顕在化しました。これを受けて国連は、「国連婦人の十年」を設定し女性の地位向上をはかる運動を積極的に展開し、「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」を採択し「性による差別を性による区別、排除、制限」と定義しました。そして、人間は生殖機能において男女は明らかに異なるもの（セックス）であるが、性格、能力、役割における男女差は後天的に形成されるもの（ジェンダー）で、「男らしさ」「女らしさ」を押し付けることは人間の自由な生き方や平等関係を損なうものであるとの認識に至ったのです。この授業では、家族や教育、労働等の分野における今日的・具体的な問題や課題について諸外国の動きをみながら考えます。	0.1	0.3	0.2	0.4

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530562	現代文化と哲学	近代に誕生した「科学・技術」のめざましい発展により、現代社会に生きるわれわれはその多大な恩恵に与るとともに、環境問題、医療倫理問題、情報倫理、企業倫理問題等々、大きな課題を受け継ぐことになった。本講義では、そのうち先端医療技術をめぐる倫理的諸問題（脳死・臓器移植問題、クローン問題、生殖医療等々）を取り上げる。また、近代哲学の大成者といわれるヘーゲルの法哲学、および、現代倫理学の諸議論に定位し、「人格」「所有権」「相互承認」「正義」という概念を手がかりに、現代社会が抱えるそれらの諸問題について、本来そこで何が問題であるのか、あるいは、何を問題とすべきなのかを明らかにしていきたい。	グローバル化・自由化が進み、資本主義市場（至上）経済のもと、個人々の幸福追求権がますますの高まりを見せている今日、ヘーゲルの法哲学および、現代倫理学の諸議論を礎に、「自由と責任」という概念を整理しながら、現代日本における「自己決定」の問題、および、国境を越えた社会問題に関する考察をすすめる。	・国境を越えた社会の諸問題として科学技術をめぐる倫理問題（とりわけ医療倫理問題）の状況を理解し、その基本的知識を習得する。 ・上記の倫理的諸問題について、異なる時代・地域の見解を比較、検討する。 ・その上で、自分なりの考えや意見をもち、また、それを論証し、さらに、他者との「対話」を重ねる力を身につける。 ・自分たちとは異なる価値観、宗教観、死生観等に広く関心を持ちながら、上記の社会問題について、実践的な解決の道を模索する。	0.1	0.2	0.3	0.4
K530565	視聴覚教育メディア論				0.2	0.1	0.4	0.3
K530566	翻訳文学論	Readings will be taken from poetry (waka, tanka and haiku) fiction (Heike Monogatari, Tale of Genji, etc.) drama (no, sekkyo, bunraku and kabuki), as well as religion (Shinto and Buddhism) and historical documents (Kojiki and Nihonshiki).	This course is designed in order for students to appreciate not only the range of genres of Japanese literature (thereby attaining a level of cultural literacy with regard to Japan), but also to begin to understand our own active roles in constructions of identity across cultures.	This course is both an introduction to the variety and range of Japanese literature and at the same time an opportunity for students to recognize the ways in which we, as human beings, construct cultural identities cultural literacy.	0.2	0.2	0.3	0.3
K560011	民族誌学演習	人類学が対象としてきた小規模な地域社会はグローバル化された国際社会に巻き込まれる一方、国際移民等を通して第一世界を侵食し、先住民運動、伝統文化の復興などの地域主義的動きを示しています。文化人類学の立場から第三世界の社会変動に関する諸問題を検討します。	第三世界を中心に、グローバル化と地域社会の対応に関するトピックを選択し、文献・調査研究を立案実施する。	この授業では植民地主義、ジェンダー、エスニシティ、地域共同体と世界システムの接合等の今日的テーマを選択し、各自文献・フィールド調査を行い、問題意識を発展させることを目標とします。	0.2	0.2	0.3	0.3
K560038	表象文化論演習				0.2	0.3	0.4	0.1
K560050	芸術文化論演習	テキストを読みながら芸術文化の特質を理解しその研究方法について学ぶ。またテキストについて自分の考えを発表し合う。	テキストの読み方と芸術文化の研究方法について学ぶ。与えられたテキストをまとめ分析批評し発表する。	テキストの読み方と芸術文化の研究方法について学ぶ。亦テキストを批評し発表する能力	閉講			
K560054	国際英語コミュニケーション演習	国際舞台でコミュニケーションをするのに必要な知識として、国際英語 (International English) という概念から世界で用いられている標準的ないろいろな英語を概観する。	言語は人間の重要な文化遺産であり、その理解は文化理解と密接に関連している。	世界で用いられている標準的ないろいろな英語の特徴を理解することを目標とする。	0.2	0.3	0.2	0.3
K560062	対人コミュニケーション論実験	この授業では、対人コミュニケーションに関係した実験や調査などの研究をどのように行うかについて学びます。	・実験計画の基礎を修得すること。(C) ・対人コミュニケーションに関係した研究を自分自身で計画し、実際に実施して分析を行いまとめるための技能を習得する。(C, D) ・すでに行われた研究の評価を適切に行うための方法を習得する。(C)	・実験計画の基礎を修得すること。 ・対人コミュニケーションに関係した研究を自分自身で計画し、実際に実施して分析を行いまとめるための技能を習得する。 ・すでに行われた研究の評価を適切に行うための方法を習得する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560063	言語学演習	言語学の文献を読んで知識を深めながら、方法論を身につけます。ハンドアウトを作成して口頭発表する能力も訓練します。	学科基礎科目としての「言語学」に対応する演習科目です。また、言語とコミュニケーション科目群に対応する演習科目としても位置づけられます。	この演習では、コミュニケーションの基礎となる言語知識（特に文構造の知識）を理論的に解明する方法について学びます。主に英語を対象言語とし、生成文法理論の枠組みで分析していきます。また、社会言語学と認知言語学の文献も取り上げます。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560079	日本語論演習	この授業では日本語論演習に引き続き、日本語の語彙・文法的側面について学ぶとともに、自ら課題を設定して調査・発表をおこなう力を養います。	・当該分野の基礎的知識をもとに、自ら課題設定をおこない、調査・発表する力を養う。	・調査・発表をおとして、当該分野の研究手法の基礎を学ぶ。 ・課題にそって分析し、考えたことをまとめる力を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560100	日本文化論演習	現代に継承されている日本の伝統文化について、文献講読と実習を通して学ぶ。	日本文化を発信する能力の向上につながる事が期待される。	日本の伝統文化を継承する意識を持って実践的に身につけ、他人に説明できるようにする。	0.0	0.0	1.0	0.0

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K560135	ドイツ文化論演習	「ドイツ文化論」(AまたはB、あるいは両者)の既修得者を対象とし、そこで学んだ知識をさらに深めることを目的とする。「文化」というものを狭義に捉えることなく、現代ドイツ全般の事情を広く知るという趣旨で授業を進める。履修者の発表と討論を主体とする。	日本人にとって遠く、直接的利害関係の少ないドイツの実態を知ることにより、自分たちの置かれている状況をより客観的に眺められるようにする。他文化と自文化を共に尊重し、他文化を自文化と重ね合わせて比較対照できる態度を養成する。	自分が関心を抱くテーマについて、広く資料を収集し、考えを深め、独自の考察にまとめ上げ、それを「卒業研究準備演習」を経て、「卒業研究」へとつなげていくための研究方法の修得を目標とする。	0.2	0.3	0.2	0.3
K560143	フランス文化論演習	この授業は、フランス文化論(2年・後期・講義)の既習者を対象とします。フランス文化に関する専門性の高い研究を行うための準備クラスです。自分自身の興味にもとづいて研究テーマを決め、独力で調査を行い、他人に理解可能な言葉で発表することを実践的に学ぶ授業です。	(A) フランス語文化圏に関する専門的な文献の内容を、その文献に即して正確に理解する。(B) フランス語文化圏に関する先行研究と自らの観点を区別・比較する基礎的な思考力を養う。(C) フランス語圏文化に関する文献調査、レジュメ作成、口頭発表、論文執筆などの基礎的な技術を学ぶ。(D) フランス語圏文化の価値観について、自らの興味に基づいて調査・理解・分析する自学自習の重要性を自覚する。	フランス語文化圏に関する専門的な文献の内容を、その文献に即して正確に理解するとともに、先行研究と自らの観点を区別・比較する基礎的な思考力を養います。また、文献調査、レジュメ作成、口頭発表、論文執筆などの基礎的な技術を学び、フランス語文化圏の価値観について、自ら積極的に調査・理解・分析する自学自習の重要性を自覚できるようになることを目指します。	0.5	0.3	0.2	0.0
K560151	イギリス文化論演習	「イギリス文化論」で獲得した知識を、自ら調べることによって、知識を深めるために、グループによるプレゼンテーションを2回行う。そのために英語によるプレゼンテーションの方法を学び、同時にプレゼンテーションのための調査の仕方学ぶ、プレゼンテーションには、パワーポイントを使用する。	文化研究のための基本的な文献調査法、チームワークの行い方、英語によるプレゼンテーションの行い方、発表に対しての質問の仕方、意見の述べ方を学ぶ。	イギリス文化について、自らの調査に基づいて、ほかの人に英語でプレゼンテーションを行う能力を獲得することと、グループ内で意見を述べながら、協力して一つの調査を行う能力を獲得することを目指す。	0.3	0.2	0.3	0.2
K560160	イギリス文学演習	「イギリス文学史」で獲得知識を深めるために、いくつかのイギリス文学作品を味読する体験をする。そのために文学の表現手法について学ぶ。	文学作品の味読を通じて、イギリス文学の特徴を理解するとともに、教職科目であることを考慮して、英語教育での文学作品の重要性も理解できることを目指す。	イギリス文学作品を英語で読み、英語表現の豊かさを味わいながら、文学作品の客観的な分析を行える能力の獲得を目指す。	0.2	0.3	0.2	0.3
K560190	アメリカ文学演習	米国文学のテキストを精読し鑑賞する。	文学の分析を通して、異なる文化への理解力と分析力を見に付ける。	米国文学を読み取るための知識と技能を習得する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560200	比較文化論演習	Through weekly presentation and directed research in a more personalized analysis of language and culture, students will develop a deeper understanding of topics in religion, intercultural communication, society and general comparative culture studies.	The focus of this course is to further develop critical perspectives on cultural differences and similarities by analyzing specific topics in cultural studies. Students are encouraged to explore topics of importance and personal relevance through presentation and participant research.	This comparative culture course utilizes various disciplines (e.g. anthropology, history, literature, etc.) and various methods, both qualitative and quantitative, to analyze cultural phenomena for the purpose of better understanding our own and other cultures.	0.2	0.3	0.3	0.2
K560216	日欧比較文学論演習	扱う素材は主として西欧の近代文学作品とその日本語翻訳書、および日本文学、またそれに関わる音楽、芸術メディアです。	通例では二年生後期で受講する「日欧比較文学論」の授業を受けて、三年前期に本ゼミで関連テーマの研究、発表を行います。さらにこの関連テーマで卒業論文の作成を目指す学生は、三年生後期の卒業研究準備演習へとつなげていきます。	特に掲げません。	0.2	0.2	0.5	0.1

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K560260	中国文化論演習	本授業は「中国文化論」の既習者を対象としたもので、受講者各自の調査・研究に基づき、中国文化、及びその背景となっている中国社会についてより深く知見を得ることを目的とします。このため、受講者には自己の興味に則してテーマを設定してもらい、発表してもらいます。また、中国本土にとどまらず、台湾・香港・シンガポールなど、華人社会やその文化も対象とします。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>→「中国文化論」を履修することにより得られた中国社会に関する問題点の中から、関心を絞り込ませ、専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識をを獲得させる。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>→各自の興味をもつ分野に関する先行研究の整理・考察、及び資料の批判的読解に関する能力を身につける。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→各自の興味をもつ分野に関する専門的な学術情報に関する成果及びその基礎となる資料の収集に関する基礎的情報を獲得させる。また、調査した内容を的確な方法を用いて報告する能力を身につけ、かつ、自己の報告に加えられた意見を客観的、合理的に整理し、自らの今後の報告に有機的に結びつけることができるようになる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p> <p>→自己の関心のある問題と研究上の意義、及び社会的・文化的な意義を、自己の関心のある問題と研究上の意義、及び社会的・文化的な意義</p>	<p>1. 卒業論文の作成に向けて自己の関心を絞り込む。</p> <p>2. 関心のあるテーマに関する先行研究の収集能力を身につける。</p> <p>3. 先行研究の整理、及び批判的読解に関する能力を身につける。</p> <p>4. 自己の調査内容を的確な方法を用いて報告する能力を身につける。</p> <p>5. 自己の報告に加えられた意見を客観的、合理的に整理し、自らの今後の報告に有機的に結びつけることができる。</p>	0.3	0.3	0.2	0.2
K560261	韓国文化論演習	「韓国文化論」を通じて知り得た（あるいは発見した）韓国と韓国人の文化や社会、歴史などへの知識を深め、韓国人たちがいかに考え、行動し、そしていかなるものを成し遂げてきたのか、あるいは成し遂げようとしているのかについて各自分析を行います。	韓国文化の特質を日本など他文化との比較を通して深めます。	文献研究やフィールドワーク調査を通じて調べたものを説明する能力と、他者の書いた論文や文献、あるいは他者の発表を批判的にとらえる習慣・態度を養います。	0.3	0.3	0.2	0.2
K560291	アメリカ文化論演習	米国の文化・歴史についての専門書を輪読する。担当者による発表に基づいて授業を進める。	米国の文化・歴史を深く理解し考察することによって、異文化への理解力や分析力を見に付ける。	問題となる事象について積極的に調査する主体的な学習態度を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560292	翻訳文学論演習	How do we construct identity? What is the nature of culture and what is ideology? How do we position ourselves as subjects amidst contending notions and expectations of identity across cultures? For the duration of this course we will be immersed in questions of identity, particularly in our encounter with culture (cultural studies.) Through the process of reading and writing we will be developing our critical thinking skills to work through these questions and to develop those ideas into our own research projects.	Critical thinking through constructions of identity in the context of culture and culture studies is the focus of this course in preparing students to assume a global perspective while continuing to maintain productive local and regional relationships.	This course is designed to get students to engage in culture primarily through media and the arts. We are meeting in the Image Lab in order to engage visually with our materials. Final projects will consist in a photographic essay.	0.1	0.3	0.2	0.4
K560293	グローバル化と外国人児童生徒教育	授業では、①外国人児童生徒教育の意義②背景③現状④論点について議論を行う。	教職に関する共通の・基礎的内容の学習をふまえて、現代的教育課題に的確に対応する為の発展的内容であるが、国際的に活動する人事あの開発	・外国人児童生徒教育の現状と課題が分かる。 ・外国人児童生徒教育問題の論点分かる。	0.8	0.0	0.0	0.2
K599020	卒業研究（市川裕見子）	各学生が研究テーマにもとづいて発表をし、それについて、ディスカッション、アドヴァイスを行う。	時間軸・空間軸ともに広いパースペクティブの中で、文化、文学、芸術について深い考察を行う。	各学生の選択したテーマについて、探求、研究を行い、卒業論文を書き上げる。	0.2	0.2	0.5	0.1

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599030	卒業研究 (梅木 由美子)	学生の研究テーマに応じて調査・研究・論文作成について助言・指導を行う。	日本語教育は国際社会や国内の社会状況と密接に関わっており、本授業は国際学養成の一翼を担うものである。	学生の研究テーマに応じて調査・研究・論文作成について助言・指導を行い、卒業論文を完成させる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599040	卒業研究 (岡田 三郎)	自分の決めたテーマについて参考文献等を参考にしながら論文を作成すること	自分の決めたテーマについて参考文献等を参考にしながら論文を作成すること	自分の決めたテーマについて参考文献等を参考にしながら論文を作成すること ある事象の分析能力	閉講			
K599060	卒業研究 (柄木田 康之)	各自の関心に応じて第三世界を中心としたグローバル化と地域社会の対応に関する文献、調査研究を立案実施する。	第三世界を中心に、グローバル化と地域社会の対応に関するトピックを選択し、文献・調査研究を立案実施する。	各自の関心に応じて第三世界を中心としたグローバル化と地域社会の対応に関する文献、調査研究を立案実施する。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599110	卒業研究 (佐々木 一隆)	読書会で関連文献を読み、定期的に卒論の進捗状況を報告してもらいながら、卒業論文作成の指導を各学生のテーマと方法論に応じて進めていきます。	言語研究を通じた4年間の学習と研究の総仕上げと位置づけられる。	言語研究に関する知識・思考・技能・意欲の4つを総動員して、学術的な価値のある卒業論文を完成させる。	0.3	0.2	0.3	0.2
K599120	卒業研究 (高際 澄雄)	自ら設定したテーマについて、広範な調査を行い。毎週発表しながら、教員の意見に沿ってさらに調査を深化させ、後期にまとめて英語による卒論を完成させる。	4年間のイギリス文化についてのまとめとして、自らの関心や疑問から、イギリス文化について調査を行い、英語の論文をまとめることによって、イギリス文化の理解の深化を図る。	仮説を立て、調査をすることによって、イギリス文化について新しい理論を構築する試みをすると同時に、英語による論文を実際に作成して、その方法を理解する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K599130	卒業研究 (丁 貴連)	卒業準備演習で行った課題を中心に卒業論文の作成を行います。	韓国の文化と社会の特質を明らかにすることができるテーマを見つけ、その分析を行います。	韓国の文化と社会の特質を明らかにすることができるテーマを見つけ、その分析を行います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599140	卒業研究 (中村 真)	この授業では、対人コミュニケーションに関係した実験や調査などの研究を自ら計画、実施し、分析して結果をまとめる作業を行います。	・自らの手で実際に対人コミュニケーションに関する研究を行うことにより、科学的で実証的な思考・判断力を養う。(B) ・研究計画の知識を深める。(C)	・自らの手で実際に対人コミュニケーションに関する研究を行うことにより、科学的で実証的な思考・判断力を養う。 ・研究計画の知識を深める。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599150	卒業研究 (米山 正文)	米国文化について各自がテーマを選び、調査研究を行う。	文化研究により米国社会の諸問題を考察し、かつ主体的に分析する能力を養う。	米国文化についての調査・研究を卒業論文としてまとめる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599160	卒業研究 (若山 俊介)	「ドイツ文化論」(AまたはB、あるいは両者)、および「ドイツ文化論演習」において学んだ知識をさらに深めつつ、一つの考察にまとめ上げることを目的とする。	「ドイツ文化論演習」、および「卒業研究準備演習」において関心をもったテーマについて、自身の考察と現実とのずれがなく、他文化と自文化とが客観的に比較対照されているか吟味する。	自身の考察と現実とのずれがなく、他文化と自文化とが客観的に比較対照されているかを吟味しつつ、独自の考察としてまとめ上げる。	0.3	0.2	0.3	0.2
K599170	卒業研究 (高橋 優)	4年間の学習の集大成となる卒業論文の作成を指導します。	卒業論文はすべてのカリキュラムの集大成です。	悔いの残らないような卒業論文の作成を目指す。	0.3	0.1	0.3	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599180	卒業研究 (松金 公正)	卒業論文作成にかかる研究指導を行います。	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。 →「卒業研究準備演習」を踏まえ、ディシプリンを踏まえた上で、中国の文化領域に関する知識・認識を獲得する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。 →中国における文化の様相に対し、他地域との比較、異なる時代との比較といった相対的な視点を持ちつつ、実証的かつ想像力豊かな考察を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 →必要な外国語や情報科学に習熟した上で、専門研究書等の講読において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができ、専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、自己の定めたディシプリンに基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、的確な方法を用い、説得的に報告し、かつ建設的に生産的な議論を行うことができる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。 →自己の個人的な関心と研究上の意義、及び社会的、文化的な意義を結びつけたうえで、人間の営みに関わる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>	<p>1. 的確、かつ網羅的に先行研究及び資料収集を行う。</p> <p>2. 先行研究の整理を踏まえ、合理的に課題設定を行う。</p> <p>3. 資料に対し、客観的な分析を行う。</p> <p>4. 分析結果を合理的かつ説得的な論理で記述する。</p> <p>5. 卒業論文における課題、及び今後の展開を理解する。</p> <p>6. 執筆にあたっての倫理的な常識、及びマナーを遵守する。</p>	0.2	0.3	0.3	0.2
K599190	卒業研究 (アンドリュー ニール ライマ)	This course introduces researchable themes as well as skills for investigation of social sciences such as critical thinking, ethnography, fieldwork and academic writing.	The focus of this course is to allow students to further develop their interests in comparative culture studies by conducting comprehensive literature reviews of significant writing in various fields of interest.	Upon completion of this course, students should have produced a critical analysis of a researchable topic of interest, a review of literature in their chosen field, a research proposal including an introduction to their thesis as well as a working outline. All writing in this course must follow APA guidelines and meet basic requirements of Academic writing	0.2	0.3	0.3	0.2
K599200	卒業研究 (松井 貴子)	卒業研究を行うために必要なことを学び、実践して、卒業研究を進める。	専門性のある読解力、国際的な視野からの思考力、読者を意識した表現力を身につけることにつながる。	研究テーマに関する知識を深め、資料を読解し考察する力を高める。自分の考えと他人の考えを明確に区別して論述することを身につけ、論文を完成する。	0.5	0.0	0.5	0.0
K599210	卒業研究 (鎌田 美千子)	各自が研究課題を設定し、その解決に向けて文献講読、調査分析、考察等を行い、卒業論文を執筆する。	大学4年間の総仕上げとして卒業論文に取り組む。	自ら研究課題を設定し、一連の研究成果を卒業論文としてまとめる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599220	卒業研究 (高山 道代)	各自の関心に応じて日本語の語彙・文法をめぐる諸現象について調査	これまでに身につけた日本語学に関する知識を生かし、テーマの立案・調査を実施する。		0.2	0.3	0.3	0.2
K599230	卒業研究 (田口 卓臣)				0.2	0.3	0.5	0.0
K599240	卒業研究 (湯澤 伸夫)	卒業研究準備演習に引き続き、発表、討論、実験などを通して、卒業論文を作成する。	英語の音声を中心に、英語学的視点または教育学的視点からトピックを選定し、文献研究を立案実施する。	卒業論文を完成させることを目標とする。	0.2	0.3	0.2	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599250	卒業研究(モリソン)				0.2	0.3	0.2	0.3
K599260	卒業研究(大野斉)				0.2	0.3	0.4	0.1
K599501	卒業研究準備演習(柄木田康之)	民族誌演習に引き続いて、第三世界の社会変動に関連する諸問題を検討します。	第三世界を中心に、グローバル化と地域社会の対応に関するトピックを選択し、文献・調査研究を立案実施する。	この授業では植民地主義、ジェンダー、エスニシティ、地域共同体と世界システムの接合等の今日的テーマを選択し、各自文献・フィールド調査を行い、問題意識を発展させることを目標とします。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599504	卒業研究準備演習(高橋優)	卒業論文のテーマについて各自発表し、それをふまえてディスカッションします。	これまでに学んだ全てのカリキュラムの集大成です。	悔いの無い集大成を作成するための準備をします。最後に、卒業論文の土台となるレポートを提出していただきます。	0.3	0.1	0.3	0.3
K599507	卒業研究準備演習(米山正文)	卒業研究の準備段階として、研究計画を立てる。	文化事象も背後の社会事象への思考力・分析力を身につける。	4年次に卒業研究を遂行するうえで必要な知識、技能、態度を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599508	卒業研究準備演習(丁 貴連)	「韓国文化論演習」で行った発表内容を深めることによって、卒業論文の作成に向けての足掛を作ります。	韓国文化の特質を日本など他文化との比較を通じて深めます。	テーマと関連する文献を見つけ、それらを読み解く力を養います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599509	卒業研究準備演習(市川裕見子)	4年次の卒業論文作成に向けて、その準備を行います。	三年次前期開講の「日欧比較文学論演習」をふまえて行います	卒業論文のテーマの設定 資料、文献の蒐集および読解 個別テーマについての口頭発表、論文作成	0.2	0.2	0.5	0.1
K599510	卒業研究準備演習(高際澄雄)	論文の書き方と目標の設定、それに調査の行い方を学ぶ。	国際学部の教育目標として、卒業論文の完成があるが、その準備を行う。また英語論文を書くための英語の訓練も行う。	英語による論文の書き方の方法を理解するとともに、卒業論文のテーマを見つけることを目指す。	0.3	0.3	0.2	0.2
K599511	卒業研究準備演習(アンドリュー ライマ)	Thesis Development Research Methods Hypothesis Development and Analysis Critical Analysis and Literature Review Writing, critiquing and revising rough drafts Using References	The focus of this guided research course is to help students develop their interests in culture studies for the purpose of engaging in unique and original research.	After completing this course students should have been able to complete a comprehensive body of research writing in English on a topic of interest and relevance to the field of Comparative Culture Studies. Students should also be able to conduct literature reviews and be familiar with the protocols of academic writing.	0.2	0.3	0.3	0.2
K599513	卒業研究準備演習(中村 真)	対人コミュニケーションに関する卒業研究を行うための準備をするため、先行研究の検討とまとめ、研究方法の立案、分析方法の検討などを行います。	・対人コミュニケーション論、対人コミュニケーション論実験で学んだことを踏まえて、卒業研究につながる具体的な研究を、自分自身で計画できる知識と技能を習得する。(C)	・対人コミュニケーション論、対人コミュニケーション論実験で学んだことを踏まえて、卒業研究につながる具体的な研究を、自分自身で計画できる知識と技能を習得する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599514	卒業研究準備演習(若山俊介)	「ドイツ文化論演習」に引き続き、履修者の発表と討論を主体とするが、その過程で各自が卒業研究テーマに向けて、独自のアイデアと考察を深める。	「ドイツ文化論演習」において設定した各自のテーマが、自分の関心にマッチし続けているかを確認し、適宜修正を加えながら、卒業研究前の最終段階として自身の考察内容と研究方法を確立する。	「ドイツ文化論演習」からさらに一歩進んだ形で、自身の考察と現実とのずれがなく、他文化と自文化とが客観的に比較対照されているか吟味しつつ、卒業研究を一つの結実として捉える。	0.2	0.3	0.2	0.3
K599515	卒業研究準備演習(松井貴子)	卒業研究を行うために必要なことを学び、実践して、卒業研究の概略を構築する。	専門性のある読解力、国際的な視野からの思考力、読者を意識した表現力を身につけることにつながる。	研究テーマに関する基本的な知識を得て、資料を読解し考察する基礎力を養う。自分の考えと他人の考えを明確に区別して論述することを身につけ、論文作成を自発的に進められるようにする。	0.5	0.0	0.5	0.0
K599516	卒業研究準備演習(高山道代)	卒業研究をはじめににあたって、必要な基礎的知識、調査方法などを学び、テーマの設定をおこないます。また、次年度にかけておこなう卒業研究の概要をまとめ、具体的なすすめかたについて計画を立て、執筆の準備をおこないます。	これまでに身につけた日本語学に関する知識を生かし、卒業研究のテーマの立案および執筆の準備をおこなう。	・卒業研究の課題を設定する。 ・テーマにそって先行研究をよみ、問題点を整理する。	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0 の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599517	卒業研究準備演習 (松金公正)	次年度に同教員の指導の下、卒業研究を行う予定の学生を対象として、卒業論文作成にかかる準備を行います。	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。 →「中国文化論演習」での報告を踏まえ、自己の関心をさらに絞り込むとともに、いかなるディシプリンで研究を進めるのか、どの学術的分野に特化した知識・認識を獲得するのかについての方向性を定める。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。 →各自の興味をもつ分野に関する先行研究の整理・考察、及び資料の批判的読解に関する基礎的知識を拡充により、相対的な視点をもちつつ、科学的かつ実証的な分析を行う基礎的視角を養う。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ、文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 →各自の興味をもつ分野に関する専門的な学術情報に関する成果及びその基礎となる資料の収集に関する基礎的情報を獲得させる。また、調査した内容を的確な方法を用いて報告するためのプレゼンテーション、及び文章化の能力に関する訓練を行う。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。 →自己の個人的な関心と研究上の意義、及び社会的、文化的な意義を結びつける。また、他者の研究報告に対し、積極的に興味をもち、客観的な立場から建設的な意見を述べるようになる。</p>	<p>1. 卒業論文の作成に向けて、「中国文化論演習」での報告を踏まえ、自己の関心をさらに絞り込むとともに、いかなるディシプリンで研究を進めるのかについて、方向性を定める。</p> <p>2. 研究テーマに関する資料、及び先行研究の収集能力を高める。</p> <p>3. 先行研究を整理することにより、研究テーマに関する問題点を発掘する。</p> <p>4. 資料の批判的読解に関する基礎的知識を拡充する。</p> <p>5. 自己の研究内容を的確な方法を用いて報告するためプレゼンテーション能力を高める。</p> <p>6. 自己の報告に加えられた意見を客観的、合理的に整理し、自らの今後の報告に有機的に結びつけることができる。</p> <p>7. 他者の研究報告に対し、積極的に客観的、建設的意見を述べるることができる。</p>	0.2	0.3	0.3	0.2
K599518	卒業研究準備演習 (鎌田美千子)	4年次での卒業研究を行うために必要な知識と研究方法を学ぶ。	卒業研究を行うための準備段階として位置づけられる。	自ら研究課題と研究計画を立てることができるようになることを目指します。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599520	卒業研究準備演習 (梅木由美子)	卒業研究に向けて、先行する研究論文や調査事例を読み、問題の所在を知るとともに専門的な知識を深める。	日本語教育は国際社会や国内の社会状況と密接に関わっており、本授業は国際学養成の一環を担うものである。	日本語教育に関する分野の研究テーマについて自ら調べ、専門知識を深めていく能力や卒業研究に必要な知識・方法を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599530	卒業研究準備演習 (佐々木一隆)	卒業研究への準備として、卒論のテーマを検討し、一次資料の収集法や理論的枠組を学び、先行研究にも触れて、4年次の卒業論文作成へと繋げていきます。	言語学演習から卒業研究へと円滑に進むための仲立ちの科目として位置づけられています。	卒業研究準備演習は、卒業研究に必要な基礎知識や研究方法・心構えを学び、卒業研究の準備態勢を整えるために開講されるものです。この授業では、実際に卒業研究の指導を受けている4年生の様子を見て、4年生と情報交換もしながら、次年度の卒業研究への準備を行います。	0.3	0.2	0.3	0.2
K599531	卒業研究準備演習 (田口卓臣)	この授業では、フランス文化論演習の既習者を対象として、卒業研究の準備を行なうことを目的とします。いよいよ卒業論文のテーマを決めるとともに、プランをたて、資料を集めて分析する方法など、論文を書くに当たって必要なノウハウを実践的な訓練を通して指導します。	(A) フランス語文化圏に関する専門的な文献の内容に関する理解を深め、自らの課題に関連する基礎知識を身につける。(B) フランス語文化圏に関する先行研究に関する自らの価値判断とその根拠に関する考察力を養う。(C) フランス語圏文化に関する自らの課題設定に即して、「フランス文化論演習」で学んだ調査・発表・分析の基礎技術を応用する。(D) フランス語圏文化の価値観について、自ら積極的に調査・理解・分析する自学自習の態度を実践する。	フランス語文化圏についての専門的な文献の内容に関する理解を深め、自らの課題に関連する基礎知識を身につけるとともに、先行研究に関する自らの価値判断とその根拠をめぐって考察力を養います。自らの課題設定に即して、フランス文化論演習で学んだ調査・発表・分析の基礎技術を応用し、積極的に調査・理解・分析する自学自習の態度を実践できるようにします。	0.2	0.3	0.5	0.0
K599532	卒業研究準備演 (湯澤 伸夫)	卒業論文が独力で書けるように、卒業論文の書き方について理解し、自分の卒業論文のテーマを決めること。	英語の音声を中心に、英語学的視点または教育学的視点からトピックを選定し、文献研究や実験を立案実施する。	授業を通して得た知識をもとに、卒業論文の構想をまとめ発表することを目標とする。	0.2	0.3	0.2	0.3

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599533	卒業研究準備演習(バーバラ モリソン)	How do we make meaning? How do cultures construct meaning through the production and consumption of images? How are these images regulated in the construction of identity? Close readings of cultural studies texts, discussion and student projects.	Critical thinking through constructions of identity in the context of culture studies is the focus of this course in preparing students to assume a global perspective while continuing to maintain productive local and regional relationships.	To ground students firmly in the practice of cultural studies (カルチュラル・スタディーズ) so that each individual will be confident in their abilities to pursue their own lines of inquiry involving issues pertaining to identity, gender, media, image and/or popular culture.				
K599534	卒業研究準備演習(大野斉子)				0.2	0.3	0.4	0.1
K900500	事前事後の指導				0.2	0.2	0.2	0.4
K900501	教育実習(4単位)				0.1	0.1	0.2	0.6
K900551	教育実習(2単位)				0.1	0.1	0.2	0.6
K900560	総合演習	中学校や高等学校で行われている「総合的な学習の時間」の担当を想定して、従来の教科・科目に限定されない課題を取り上げて検討します。講義を加味した演習を通して、そうした課題に関心を持ち、知識を深化・総合化させて、解決策や理解の道をさぐっていきます。この授業では、国際文化学科の教員3人が国際理解教育の一環として「異文化理解」を取り上げ、アメリカ文化、フランス文化、ドイツ文化に焦点を当て、日本文化との差異について理解をはかります。	中学校および高等学校の免許取得に必要な「教職に関する専門教育科目」に位置づけられ、「総合的な学習の時間」に対応するための演習科目です。教員免許の取得をめざす学生は履修しなければなりません。	アメリカ文化、フランス文化、ドイツ文化を日本文化と比較対照することを通して、異文化への理解をはかることを到達目標とします。	0.1	0.3	0.3	0.3
K900561	教職実践演習(中・高)				0.2	0.2	0.3	0.3
K900600	博物館実習				0.1	0.1	0.3	0.5
K999991	国際キャリア開発特論	国際的な分野で仕事をするための専門的知識と実務能力の向上に向けて、同分野の第一線で活躍される講師を招き、演習を通して高度な専門知識や技能、仕事への姿勢を学び、具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指します。事前に参考文献を予習し、合宿後にレポートを提出を課します。	国際キャリア教育として、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習ⅠⅠ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語ⅠⅠ」の6科目があります。	1. 国際的な分野で必要な高度な専門知識と技能を学ぶ、2. 仕事への姿勢を学び、具体的な卒業後の国際キャリア形成を目指す。	0.2	0.2	0.4	0.2
K999992	国際キャリア実習Ⅰ	国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを旨として、国内の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。インターン後はレポート提出を課します。	国際キャリア教育として、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習ⅠⅠ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語ⅠⅠ」の6科目があります。	1. 現場体験あるいは実習経験を積み、2. 実務能力、企画力とコミュニケーション地価 r を高めます。更に、3. 自分の関心分野や専門性をより明確にします。	0.2	0.3	0.1	0.4
K999993	国際キャリア実習ⅠⅠ	国際ビジネスや国際協力、国際交流活動・観光業などで活躍することを旨として、海外の企業・NGO・公的機関・国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。インターン後はレポート提出を課します。	国際キャリア教育として、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習ⅠⅠ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語ⅠⅠ」の6科目があります。	1. 英語などの外国語を用いて現場体験あるいは、実習経験を積み、2. 実務能力、企画力とコミュニケーション力を高めます。更に、3. 自分の関心分野や専門性を寄り明確にします。	0.2	0.3	0.1	0.4
K999995	※日研生特別演習Ⅰ	日本語・日本文化研修留学生を対象に1年間の研究成果を論文にまとめるための指導を行う授業である。研修期間の前半にあたる「Ⅰ」では、研究テーマの確定に向けた指導を行う。	日本語・日本文化研修プログラムの目標は、研修留学生が、日本語能力のさらなる向上を図るとともに日本語や日本の文化についての専門的な知識と理解を深めることであり、この授業はこのプログラムの中心となる授業科目である。	日本語・日本文化研修プログラムの成果としての研修論文の完成に向けて研究テーマを絞り込んでいく。	0.2	0.3	0.3	0.2
K999996	※日研生特別演習Ⅱ	日本語・日本文化研修留学生を対象に1年間の研究成果を論文にまとめるための指導を行う授業である。研修期間の後半にあたる「Ⅱ」では、論文の最終的な完成、また研修論文最終報告会に向けた指導を行う。	日本語・日本文化研修プログラムの目標は、研修留学生が、日本語能力のさらなる向上を図るとともに日本語や日本の文化についての専門的な知識と理解を深めることであり、この授業はこのプログラムの中心となる授業科目である。	日本語・日本文化研修プログラムの成果としての最終発表会、および研修論文の完成を目指す	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際社会学科 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p>
-----------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	カリキュラムの学習・到達目標との関連	授業の到達目標	ディプロマポリシーの項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K999997	国際キャリア開発基礎	国際ビジネス、国際協力、国際交流・観光などの分野から第一線の実務者を講師陣として招き、講義およびワークショップ形式での合宿セミナーを行います。各講師の職務、働く意義、また各分野が直面する課題を学びます。事前に参考文献や専門用語を予習し、合宿後にレポート提出を課します。	国際キャリア教育として、「国際キャリア開発基礎」「国際キャリア開発特論」「国際キャリア実習Ⅰ」「国際キャリア実習Ⅱ」「国際実務英語Ⅰ」「国際実務英語Ⅱ」の6科目があります。	1. 国際的な仕事で働く意義や面白さ、職業観を学ぶ。2. 国際的な仕事の知識と求められる能力、そこに至る具体的な道筋（キャリアパス）を学ぶ。3. 自分の専門性や関心分野をより明白にする。	0.2	0.2	0.2	0.4